

ALUMNI NEWS

INTERNATIONAL
CHRISTIAN UNIVERSITY



ICU ALUMNI
ASSOCIATION
3-10-2, Osawa
Mitaka-shi, Tokyo 181-8585

TEL&FAX : 0422 33 3320
<https://www.icualumni.com/>
E-mail : aaoffice@icualumni.com

ALUMNI NEWS
VOL.132 MAR.2020

Let's Enjoy Music at ICU Church!

実はすごいんです、ICUのオルガン: p.02
／ ICU教会を支える聖歌隊とハンドベルクワイヤ: p.04

小特集 震災から8年の福島をたずねる
米国からの視察ミッションに参加して: p.10

桜祭りのご案内 : p.22

大特集

Let's Enjoy Music at ICU Church!

入学式、卒業式、チャペルアワー、クリスマスの燭火礼拝、結婚式——。

ICUに入学し、学び、卒業し、さらに卒業後も、ICU教会でのパイプオルガンの音色や、そこで奏でられるさまざまな音楽に触れた記憶は、ほとんどの卒業生がお持ちなのではないだろうか。日本の大型パイプオルガン設置の先駆けとなったICU教会は、祈りの場、学びの場であると同時に、音楽が奏でられる場でもある。あの大きな礼拝堂に響く音楽の社は、学生、卒業生、ファカルティ、職員だけでなく、誰にでも開放されている。

実はすごいんです、ICUのオルガン

文・写真(注記以外)：望月厚志(本誌)

日本の大型オルガンの先駆け

ICU教会における音楽を語る上で欠かせないのは、パイプオルガン(以下、オルガン)の存在だろう。オルガンが教会に設置されたのは1970年。世界のオルガンを手がけるオーストリアの名門オルガンメーカー、リーガー(Rieger)社が造ったものだ。その後、リーガー社は、サントリーホール(東京・赤坂)、所沢市民文化会館などのオルガンも手がけている。また、お正月に放送されるニューイヤーコンサートで有名な、ウィーン楽友協会のオルガンもリーガー社製だ。

それまで、日本には大型で本格的なオルガンはほとんどなく、NHKホールがそのオルガンとともに完成したのが1972年、神奈川県民ホールのオルガンが1975年なので、完成当時はまさしく日本の大型オルガンの先駆けとして注目された。

世界の一流オルガン奏者を招聘

オルガンの完成とともに設置されたのが、その運用と整備を担当する「オルガン委員会」(現在の宗教音楽センター=Sacred Music Center)だ。宗教音楽センターがコンサートの企画やオルガニストの選定・招聘もおこなった。オルガニストは日本国内ばかりでなく、世界の一流奏者を招聘してコンサートを企画していた。

初期の招聘オルガニストとして有名なのが、オルガン界の巨匠、フランスのマリー=クレール・アラン(Marie-Claire Alain。1926~2013年)である。彼女はICUのオルガンをこよなく愛したと言われており、来日するたびにICU教会でコンサートをおこなった。

初代宗教音楽センター所長となった大口邦雄先生(理学科教授=当時。数学専攻。その後、教養学部長、学長を歴任)は、自らも趣味でオルガン演奏を学んだことがある方だが、アランと

厚い親交を結び、キャンパス内の教員住宅にアランを招いてホームパーティーを開いたりもしたそう。ちなみに、アランは来日の折にはキャンパス内の楓林荘(Maple Grove)に滞在するのを好んだという。

その次に有名なオルガニストが、オランダを代表するオルガン奏者、チェンバロ奏者、指揮者のトン・コープマン(Ton Koopman。1944年~)だ。今では毎年のように来日して、手兵のアムステルダム・バロック管弦楽団や、新日本フィルハーモニー、NHK交響楽団などを指揮しているが、1980年、最初に日本に招聘したのがICU宗教音楽センターである。オルガンコンサート、チェンバロコンサート、マスタークラス(専門家向けの公開講座)などを企画した。大口先生は、「彼はその後めきめきと有名になり、それからではICUの安い謝礼ではどうてい来てくれなかったであろう」と述懐している*。

もちろん、こうした海外のオルガニストばかりではない。現在、宗教音楽センターでは、菅哲也、岩崎真実子、徳岡めぐみ、の3人の「大学オルガニスト」を擁していて、所長のマット・ギラン教授(Matthew Gillan=音楽専攻)とともに、オルガン演奏会/クリスマス演奏会などの企画、現役学生向けのオルガン講座の実施などを担当している。「オルガン演奏会は、現在、春学期に3回、秋学期に2回おこなわれていて、すでに300回以上開催しています。内外のベテラン/若手のオルガニストが毎回招聘され、若手オルガニストの登竜門としての役割も果たしているのです」とギラン教授は語る。1970年から1990年までの招聘オルガニストを見渡すと、海外からはジグムンド・サットマリー(Zsigmond Szathmary)、アンリエット・ピュイグ=ロジェ(Hemriette Puig-Roget)、国内では鈴木雅明、今井奈緒子、武久源造、松居直美、井上圭子——といっ

た有名どころのオルガニストがずらりと並んでいる。ICUのあの大きな教会に響く本格的なオルガンの演奏を2000円前後の低価格で聴くことが出来るのは魅力だろう。

第5回鳥居音楽賞を受賞

話は少し戻るが、アランやコープマンを招聘して宗教音楽センターは「ICUオルガン・アカデミー」を企画している。これは、単なるオルガン演奏会にとどまらず、オルガンを学ぶ専門家に向けたマスタークラスや、日本の演奏団体との共演などを組み合わせたものだ。

第1回オルガン・アカデミーは、オルガンの設置から2年ほどたった1973年1月に開催した。アランに加え、オーストリアを代表するオルガニストで作曲家でもあった、アントン・ハイラー(Anton Heiller)、当時米ボストンのニューイングランド音楽院を拠点に活動し、一時宗教音楽センターの顧問も務めた林佑子——の3人のオルガニストの演奏に加え、ハイラーの自作曲「オルガン協奏曲」が作曲者自身の指揮、読売日本交響楽団が伴奏して演奏された。

この第1回オルガン・アカデミーは、当時のクラシック音楽界に強いインパクトを残し、後にその年度の日本の音楽界に最も貢献した音楽家・団体に贈られる鳥居音楽賞(現、サントリー音楽賞)をオルガン委員会が受賞することとなった。その推薦理由を、少し長くなるが引用しよう。

「昭和48年1月、フランスのオルガン音楽の権威マリー=クレール・アラン、およびオーストリアの大家アントン・ハイラーという2人の国際的オルガニストを講師に招き、ICUオルガン・アカデミーを開催し、わが国で最初の試みであるパイプオルガンの講習会と連続演奏会を成功させ、受講者ならびに聴衆に多大の感銘を与えた。こ

の企画は、いまようやく黎明期を迎えつつある日本のオルガン音楽の正統的な発展のために、極めて有意義な第一歩であったと認められる。なお、同委員会はその成果を踏まえ、その後毎月のようにオルガン演奏会を開催し、オルガン音楽の普及に貢献している。この委員会の活動を我々は極めて高く評価するものである。」*

この第5回鳥居音楽賞には、朝比奈隆(指揮)、高橋アキ(ピアノ)、今井信子(ヴィオラ)、林靖子(ソプラノ)、岩崎洸(チェロ)といった国内の一流の演奏家がノミネートされていて、それらを抑えて地味なICUオルガン委員会が受賞したことは、まさに画期的なことだったと言えるだろう。

3回目のオーバーホールを実施

このオルガンに、昨年夏、興味深い作業がおこなわれた。設置以来、15~17年に一度おこなうというオーバーホールだ。7月1日に始まり、8月27日まで約2カ月にわたった。各パイプなどの部品を分解し、ホコリやサビなどを落とし調整、組み立て直して調律するものだ(写真6)。腕時計の分解掃除のようなもの、と言ってしまおうとあまりにサイズが違いすぎて怒られるだろうか。オルガンを構成し、さまざまな音階・音色を出すためのパイプの数は2977本。一番大きなパイプは長さ約3.5m、重さが約40kgある。それを「分解してまた組み立てるのは気が遠くなるような作業でした」とギラン教授は振り返る。

また、オーバーホール以外にも、「重要な機能強化が2010年におこなわれています」と大学オルガニストの岩崎真実子氏が説明してくれた。それが、オルガンのコンピュータ化だ。オルガンにはストップ(音栓)と呼ぶノブが何十個とあり(ICU教会のリーガーオルガンは36個)、それを押したり引いたりすることで、鍵盤と足鍵盤に



1 ICU教会のリーガーオルガン。2 宗教音楽センター所長のマツ・ギラン教授。ギラン教授の専門は沖縄の民族音楽。3 クリスマス演奏会に招聘されたスイスを代表するヨーデル歌手で作曲家でもあるマリーテレーズ・フォン・グンテン氏(左)と東京ようでる合唱団を主宰する伊藤啓子氏(右) (写真: 宗教音楽センター)。4 2019年のクリスマス演奏会は「スイスのクリスマス」がテーマ。東京ようでる合唱団(写真: 宗教音楽センター)。5 2019年12月13日におこなわれた燭火礼拝。6 オルガンのパイプを一本一本、分解して掃除する(写真: 宗教音楽センター)



対して使用するパイプの組み合わせを変える。これによって、オルガニストは自分の所望の音色を出すことが出来る。バロック時代の楽譜には特にストップの指定は記されていないので、バッハの同じ曲を演奏しても、ストップの組み合わせがオルガニストの考えによって変われば、何通りもの違った音色の演奏が存在するわけだ。オルガニストによっては、演奏会当日までストップの組み合わせを秘密にするという人もいるという、オルガン演奏の重要な要素だ。

ところが、3段ある鍵盤プラス足鍵盤を演奏しながらストップも操作するのは至難の業。そこで、オルガンの演奏には実はストップを操作するアシスタントが必要になる。特に、難解なストップ操作が必要な現代曲となると、鍵盤台の両側にアシスタントが1人ずつ立ってストップの操作を頻繁におこなう、といったことが要求されていた。それが、2010年のコンピュータ化によって、「システムがあらかじめ曲の中のストップの組み合わせを記憶してくれるので、アシスタント無しでも自分の思うように演奏が出来るようになりました」(岩崎氏)というわけだ。

教会に響きわたったヨーデル 豊富に音楽が流れるクリスマス

教会でおこなわれるコンサートは、オルガン演奏会に限らない。クリスマス演奏会にも力を入れている。「センターのメンバー全員で企画を出し合い」(ギラン教授)、毎年ユニークな演奏会を開催している。

2019年12月7日開催のテーマは、「スイスのクリスマス」。スイスから、ヨーデル歌手であり作曲家でもあるマリーテレーズ・フォン・グンテン(Marie-Theres von Gunten、写真3左)らを招聘。日本人ヨーデル歌手の伊藤啓子(写真3右)が主宰する「東京ようでる合唱団(Tokio Jodel

Gasshodan)」、東京芸術大学卒業生を中心となりスイス民族音楽を演奏するユニット「アムスレ・クヴァンテット(AMSLE Quantett)」、大学オルガニストの岩崎などが加わって、グンテンのヨーデルミサ「汝を守りたもう」(Jodlemesse „Bhuet euch!“)やスイスのクリスマスキャロルなどを演奏し、教会にヨーデルの歌声が響きわたった(写真4)。

クリスマス演奏会には、今まで、ハイリッヒシュッツ合唱団、タブラトゥーラ、東京芸術大学バッハカンタータクラブ、立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊など、これらもまた一流の演奏団体が客演しており、今後の企画も楽しみだ。

ICUのクリスマスにとって忘れてはならないのが大学燭火礼拝(Candlelight Service)だろう。700人ほどのICU関係者で毎回教会が満員になる。ヘンデルのハレルヤコーラス(オラトリオ「メサイア」から)を歌った思い出をお持ちの方も多だろう。世界各国の留学生らが英語と自国語で聖書の一節を朗読する間に、さまざまな作曲家のミサ曲やクリスマス向けの賛美歌が演奏される、ICUのIとCを象徴する礼拝だと筆者は思う。宗務部と音楽専攻の教授、金澤正剛先生(1期、現名誉教授)、伊東辰彦先生(23期、教養学部長、現名誉教授)たちがまとめてきた。グリークラブに希望者を加えた大勢の合唱団、時に卒業生も加わったCMS管弦楽団が演奏を担当した。さらに、学内のハンドベル・サークル「Bell Peppers」も毎回演奏している。

伊東先生が定年退職した2018年からは、ミサ曲やメサイアの演奏をやめ、賛美歌のみを歌う静かな燭火礼拝になっている。これもしっとりとした雰囲気でのいいのだが、筆者はCMSでヴァイオリンを弾いていたので、シャルパンティエ「真夜中のミサ」やバッハ「ク

リスマス・オラトリオ」といったクリスマスにちなんだ合唱曲をまた聴きたい、いや現役の学生に混じってまた弾きたいとも思っている。

さらに、各待降節聖日やクリスマスイブには聖歌隊の歌声が響くが、これは後半の「ICU教会を支える聖歌隊とハンドベルクワイヤ」に詳細を譲る。

50周年を迎え、記念演奏会も

1970年10月に奉献された教会のリーガーオルガンは、今年2020年に設置50周年を迎える。「6月13日に、設置50周年記念演奏会とシンポジウムを計画しています」(ギラン教授)という。また、音楽専攻の佐藤望教授の主導で、「オルガンと合わせたICU

ならではの《メサイア》全曲演奏を企画します」(佐藤教授)。プロの声楽家、オーケストラに、現役の学生を主体とした合唱団を組織し、宗教音楽センターの2020年のクリスマス演奏会として演奏される計画だ。今年は、オーバールームを終え磨きがかかったオルガンの50周年を彩るさまざまな演奏会が企画されているのが楽しみだ。

*) この記事は、マツ・ギラン先生へのインタビュー、そのインタビューに居合わせた岩崎真実子先生のお話、在学中より筆者がご指導いただいた大口邦雄先生、金澤正剛先生が折に触れてお話しくださったこと、および「オルガン奉獻20周年記念誌」(1991年9月)、「鳥井音楽賞1973」(1974年3月)を基に執筆しました。敬称は適宜省略させていただきました。

ICUは4台のオルガンを所有

ICUが保有するオルガンは、礼拝堂のリーガーオルガンだけではない。宗教音楽センターではさらに3台のオルガンを保有して、様々な用途に使っている。2台目として設置されたのが、「森有正記念オルガン」である。

森有正(1911~1976)は、ご存じ日本を代表する哲学者、フランス文学者。長くパリを拠点に活動したが、ICUとも縁が深く帰国した折には客員教授として講義をしたり、明け方によく教会のオルガンを演奏したりしていた。最後はICUへの教職が内定していたのだが、病を得て1976年10月パリで客死した。

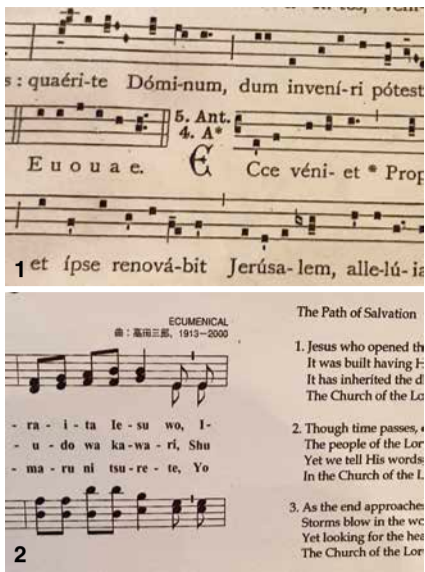
一方で、リーガーオルガンが設置された当初から、学生の中にオルガンを学びたいという希望があったのだが、このオルガンでは初心者学習・練習には大きすぎてふさわしくないなどの理由から、学生の利用は制限されていた。そのことに心を痛めた森有正は、著書『バビロンの流れのほとりにて』「現代のアレオパゴス」などで得た印税の一部を練習用オルガン購入基金と



して大学に寄付した。これに、鳥井音楽賞の賞金100万円を加えた基金を核に購入計画が進められたのが、1985年10月に本館4階421号室に設置された森有正記念オルガン(草刈オルガン工房製。2段鍵盤+足鍵盤、10ストップ、パイプ473本)である。

さらに、1989年にはもう一台練習用オルガン(米ノアック社製。2段鍵盤+足鍵盤、4ストップ、パイプ174本)を購入したほか、シーベリー記念礼拝堂(三角チャペル)にも可搬型オルガン(米テイラー&ブーディー社製。1段鍵盤、3ストップ)が1992年に設置された。

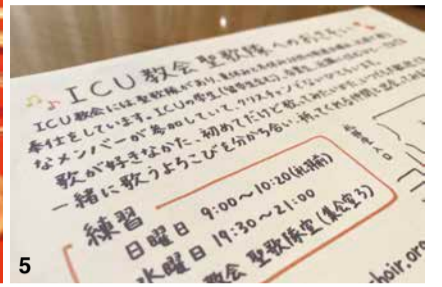
練習用オルガンは、希望者に個人レッスン形式で教える「オルガン講座」、音楽専攻や一般教育の講義・実技、研究会などに活用されている。



1 グレゴリオ聖歌は、五線譜ではなく四線譜に四角い音符が書かれているものもある。これは「ネウマ譜」というが、五線譜に慣れていると読むのが大変で、音で覚えるという。
2 留学生のために作ったローマ字の楽譜。



3 現在の基本編成は、ソプラノ6人、アルト7人、テナー2人、ベース1人。全員そろわないときは、テナーの人がベースを、さらにアルトの人がテナーを、などと別のパートを歌うこともある。4 高音のベルは約300g、低音のベルは大きく重く5kg以上のものもある。5 「一緒に歌う喜びを分かち合い、祈ってくれる仲間と出会ってみませんか。」鈴木さん手製のフライヤー 6 チャリティコンサートで指揮者を囲んで。



ICU教会を支える聖歌隊とハンドベルクワイヤ

礼拝堂前のツリーに小さなあかりが灯り、クリスマスを迎える待降節。教会を音楽面で支える聖歌隊とハンドベルクワイヤ「ジョイフルリンガーズ」の皆さんにお話を伺った。

文・写真：亀山詩乃(本誌)

「毎週が音楽礼拝であると思われるほど音楽に満ち溢れた礼拝を捧げる伝統があります」Webサイトで見かけたその言葉に心ひかれ、ICU教会の聖日礼拝を訪れた。2019年12月15日(日)、待降節第3聖日。およそ350人が集う礼拝堂に、パイプオルガンの前奏が鳴り響いた。この日の前奏は、ヴァルター作曲の『神の御子は来たりて』。余韻に浸る最中、聖歌隊の穏やかで澄みわたるハーモニーが会衆席後方から降り注いできた。そして、パイプオルガンの伴奏で会衆が讃美歌を歌う。聖歌隊は、歌いながら中央通路をゆっくりと進み、パイプオルガン横の聖歌隊席へ。心地良い音楽に包まれてゆく贅沢な時間。少しばかり冷える冬の朝の礼拝堂も、あたたかく感じられた。

— 聖歌隊 —

毎週変わるアンセム

1回の礼拝で、基本的に4曲奉唱する。パイプオルガンの前奏の後に歌う短い曲(Introit)、聖書朗読の後に歌う長めの聖唱(Anthem)、献金の祈りの後に歌う応答唱(Response)、祝福の後に歌うアーメン唱(Amen)だ。短い3曲は1カ月くらい同じものが続くこともあるが、アンセムは毎週変わる。12月の聖日礼拝のアンセムは、パレストリーナ『輝く、実り多き創り主』、コダーイ『久しく待ちにし』、パレストリーナ『我らの先祖に告げたまひしごとく』、プレトリウス『歌え、喜べ!』の4曲。

「1年の中で繰り返し歌うのはせいぜい2、3曲。何年も所属していると知っている曲も登場するけれど、最初の半年か1年は予習をしないと練習についていけませんでした」と振り返るのは、もうすぐ聖歌隊歴6年目を迎える鈴木梨沙さん(63 ID19)だ。

指揮者の小口浩司氏によると、教会暦とその日の聖書箇所に対応しいアンセムを選んでおり、留学生もいるので英語やラテン語で歌う作品を比較的多く扱っているとのこと。

1991年から所属する森本えり子さん(20 ID76)は、「今は2分を超す曲はほとんどないですが、昔は6~8分の長い曲も結構ありましたね(笑)素人の指揮者の時代もありましたが、小口さんは様々な場所で活躍するプロの指揮者。そうだった今の聖歌隊の歌声は昔とは変わってきているかも。指揮者の影響ってとても大きいと思います」と、この29年間を振り返る。

16世紀前後のルネッサンスのポリフォニー(多声音楽)をラテン語で歌うことが多く、ラッターやチルコットといった現役の音楽家の曲を含む、近現代の英国のアンセムなどもよく選ばれる。

「ラテン語の歌の場合はできるだけ歌詞カードを作るようにしています。英訳と日本語訳。時間的に余裕がある時には逐語訳することも」と、今由音さん(40 ID96)に見せていただいた楽譜には独自の記号で細かく書き込みがなされていた。心のこもった美しいハーモニーのためには、一人ひとりの

こういった努力も欠かせない。

それぞれのタイミングで聖歌隊に導かれた

1954年に教会ができた当初から聖歌隊は存在する。現在は大学1年生から80代までの16人で活動している。ICUの卒業生は5人で、現役の学部生は1年生が2人、院生(留学生)が2人。近隣在住の方、教会員やそうでない人も、実にさまざま。他のミッション系大学の「他教会の礼拝に出席する」という課題で、ICU教会を訪れてそのまま聖歌隊に飛び込んだ人もいるという。

今回取材に応じていただいた3人の卒業生も、さまざまなきっかけで教会に足を運び、聖歌隊へと導かれた。

入学する前から足を運んでいたのは鈴木さんだ。「中高時代は毎日礼拝があつて学校の聖歌隊にも所属していました。ICU教会を訪ね、聖歌隊に入りたいと思ったのが入学する直前の春でした。」

ICU高校出身の今さんは、英語の先生が教会学校で教えていたことで数回通ったのが、教会とつながるきっかけだった。入学後は時々教会で活動しグリーンクラブにも入っていたが、聖歌隊員であり一緒にグリーンで歌っていた仲間誘われて参加したのは卒業後のことだ。

森本さんは、寮のルームメイトに誘われたのが教会を訪れる最初のきっかけだったという。「アドバイザーが2代目のICU教会牧師でもあった故古屋

安雄名誉教授(宗教学)で、成績をもらいに行くのが宗務部だったんです。あと、寮の友達で牧師の娘さんがいて、彼女と一緒にアルバイトをするうちに宗務部を出入りするようになって。卒業後は宗務部に就職し、当番でない時に参加させてもらっていて。夫の仕事で同行したプリンストンから帰ってきたタイミングで正式に参加。得意というわけではないけれど、歌うのが好きだったんですね。」

学生のための教会であり、学生のための聖歌隊である

毎週水曜日の19時半から21時と日曜日の9時から練習を行うが、ICU教会で練習することにこだわるのには理由がある。

「現在の聖歌隊に欠けている世代、仕事や育児、介護等に追われる人たちにとっては、こんな森の中ではなく(笑)駅に近い場所で練習した方が絶対に楽。でもこの場所にこだわるのは、学生のための教会であり、学生のための聖歌隊だから、というのが一番にからです。土日に駅前だったら学生が行きにくいけれど、ここなら授業が終わって駆けつけられる。」(今)

働きながら参加する人の中には「満員電車で揺られて疲れてここに来て人の心を取り戻す(笑)」と表現する人もいるのだとか。

欠かせない留学生の仲間

「自宅生は通うのに時間がかかり、寮生は卒業すると遠くの地元に戻って

しまうこともあって続けにくい。留学生の院生が4人もいた時期があり、短期間でも加わってくれるのも今後続けばいいなと思います。」(鈴木)

2019年6月まで2年間参加していた留学生のエリザベス・ダ・コスタさん(ポルトガル出身/ICU大学院を卒業)は、聖歌隊についてこうコメントを寄せた。

「By joining the ICU Church Choir I was able to do both in one go: I fulfilled my dream of singing and was able to contribute to a wonderful community project. In the ICU Church Choir I found a very warm group of friends who welcomed, with open arms, this stranger who could barely sing. I wanted to contribute but I feel I received so much more. I would not miss one rehearsal even if I had a deadline to submit a paper or if it was raining heavily. There I not only learned how to sing, I also learned the values of humility and patience. Above all it strengthened my faith. There I discovered what St. Augustine's meant with his words: "To sing is to pray twice."」

日本語で歌う時はローマ字の楽譜を作ったり英語の逐語訳や直訳を書いたり……と、聖歌隊メンバーからのサポートも彼女の大きな支えとなっていたのではないだろうか。現在は職場であるジュネーブの地元の聖歌隊に入り、これからの活躍が期待される。

楽しくなきゃ始まらない、でも神様に捧げる以上は最高のものを

ICU教会の聖歌隊で歌う喜びについて、3人はこう述べた。

「まず楽しくなきゃね。でも好きという気持ちだけで歌うのではなく、礼拝の中でリードするのが聖歌隊の役目。讃美する、捧げるという気持ちを皆がもっています。」(森本)

「その通り。ただ楽しいだけではだめで、神様に捧げる以上は最高のものを捧げたい。と言っても実際には多くの時間を費やせるわけではなく限度があります……。」(今)

「日常、礼拝や練習に行けない場合は、何かすっぱり抜けた感覚になります。全員で歌ってピタッと合う感覚ももちろん良いですが、ソリ(2人のソロ)がピタッと合った瞬間、心が合ったなと特に感じました。合唱団ではなく聖歌隊であること、教会の中で担うものや礼拝で歌う意味を、クリスチャンではなくとも感じるところはあり、それが喜びでもあります。難しいことは抜きにして、やっぱり歌うのは楽しい。」(鈴木)

— ハンドベルクワイヤ —

2019年12月24日(火) 19時。2階席まで埋まった礼拝堂でクリスマス・

イブ礼拝が行われた。キャンドルにはあたたかな火が灯され、『きよしこの夜』『もろびとこぞりて』といったクリスマスらしい讃美歌を会衆全員で歌った。この日聖歌隊が歌ったのは、カントレッド『ダビデの村の』、バード『祝福された乙女』、ラッター『クリスマス・ララバイ』。ジョイフルリンガーズが演奏したのは、クルッグ編曲『みつかいうたいて』とロジャース編曲『まぶねにやすけく』だ。

イブ礼拝に向けた練習前、ジョイフルリンガーズの坂部真理さんとICU教会員でもある西尾朋代さん(22 ID78)にお話を伺った。

出発は教会幼稚園

1983年、ICU教会幼稚園(2015年閉園)に子供を通わせていた保護者やその関係者から始まった。初めはカラフルなミュージックベルで演奏していたが、本格的なイングリッシュベルを大学のハンドベルサークルBell Peppersから借りながら、徐々に自分たちで買いそろえていった。「教会員、卒業生に限らず、受け入れられ活動できることは嬉しいことです。礼拝の中でベルを通して神さまへの讃美を表現できることに喜びを感じて、これまで続けてこられたのだと思います」と、坂部さんは語る。

心を一つに、お互いを尊重

ハンドベルは一人ひとりに担当する音階が割り振られ、全員で1つの曲を作り上げる楽器だ。人の音をよく聞きながら、自分の出すべき音量や音色を考えて打つ。年齢も50~70代と、同じようにベルを振っても力が弱い人はあまり音が出ないことや遅れることもあり、バランスを取るのが難しいという。

「心を一つにし、お互いを尊重するというのが目指すところです。」(坂部)

現在のメンバーは13人で、ICUの卒業生は2人。毎週木曜日の午前中に集まり、イースターやクリスマスなど教会暦に合わせた年10回程度の聖日礼拝、大学の入学式や卒業式の礼拝に向けた練習をしている。ほとんどが初心者から始めたメンバーは、徳善義昌氏の指揮のもと、高度な技術が要求されて練習にも力が入る。

「週1回だけの練習ですから、1曲を仕上げるのに1カ月から1カ月半はかかります。12月の今も2~4月の曲を練習しています。普段の練習は……とても厳しいです(笑)ときに徳善先生に『譜面にはそうやって書いていない』と厳しく指導されることもあります。カラヤンやプロの音楽家について熱く語るなど……でもそれだけ高いものを私たちに求めてくださっているのだと思います。」(西尾)

指揮者の徳善氏は御年86歳で、25

年もの長い間ジョイフルリンガーズを指導している。

教会以外での奉仕活動

老人施設や保育園は依頼があったときに訪問するが、府中刑務所での慰問演奏は隔年で行なう。2019年はクリスマス会で2曲演奏し、一緒に讃美歌も歌った。長いこと行なっているが、昨年初めての出来事があったという。

「私たちの演奏が終わったら初めて受刑者から拍手が起こり、本当に驚きました。規則の厳しい環境で、動くなと言わんばかりに刑務官がぐるりと囲んでいて横を向いても怒られるような雰囲気なので……本当にびっくり。」(西尾)

また、教会に属するハンドベルチームが集まって演奏する「教会ハンドベル音楽祭」にも参加している。

「年に1回、他教会のクワイヤと交流し、共に神さまを讃美できることはとても素晴らしい機会だと思います。」(坂部)

2000年から始まったこの音楽祭は20周年を迎える。2020年はそれを記念し、マスリンギングという大人数で演奏する曲目もあるのだそう。

ICU教会の北中牧師に聞く

ICU教会における音楽について、牧師の一人である北中晶子さん(46 ID02)にお話を伺った。

— そもそも、教会や礼拝における「音楽」にはどのような役割や意味があるのですか？

北中：礼拝は神を崇める時間です。日頃いろいろなことで心も頭も一杯になる私たちですが、その時間だけでも、静まって心を神に向けることを目指しています。教会や礼拝における音楽は、それを助ける働きを持つと思っています。

— 音楽溢れるICU教会での礼拝。毎週礼拝を行なう牧師先生の目線で日頃感じるがありましたら教えてください。

北中：ICU教会がすばらしい音楽に恵まれていることは、とてもありがたいことだと思っています。どのご奉仕も、時間も労力も割いた「準備」なくして出来るものではありません。皆で一緒に神を崇めるためにどれだけの準備があるかを考える時、皆さんと神さまへの感謝の思いに満たされます。

また一方で、礼拝音楽の大事な柱である「会衆讃美」も、注目されることは少ないかも知れませんが、神を崇めるために非常に重要な役割を持っています。豊かな音楽に促されて、讃美歌の歌声も伸びやかに広がることを実感しています。

— 出席する私たちも大切な一員なのでですね。

長く続けてこられた秘訣

ジョイフルリンガーズは2020年で37年目を迎える。創設当時から所属している唯一のメンバー柏木博子さんにもお話を聞くことができた。息子さんの小学校の同級生が幼稚園出身で、その保護者に誘われたのがきっかけだった。介護などで2年ほど休んだこともあったが、30年以上続けてこられた秘訣を笑顔でこう語った。「一番はね、例えばピアノだったら予習復習をしなきゃならないけれど、ベルは家で練習しなくていいところ(笑)。もちろん楽譜は読みますし、予習復習ができないだけに2時間の練習はとても大事。それと、あの場はたくさんの同じ世代の人たちが集まっていて、進学のことや介護のことなど、週1回会うお母様たちにアドバイスをいただいて本当に助けられました。ベルじゃないところでの繋がりも深いですね。それが長続きの秘訣かも。」

— 宗教活動に対してどのように音楽を取り入れていますか。

北中：日々の礼拝から不定期の礼拝(葬儀など)まで、特にオルガニストの皆さんにはとてもお世話になっています。音楽が変わると礼拝全体がだいぶ変わりますが、毎週水曜の大学礼拝では学生の皆さんの力を借りて、時にはギターや打楽器を使うコンテンポラリースタイルの礼拝を持つこともあります。

— 随分と雰囲気が変わりますね！他の楽器が登場することは？

北中：キリスト教週間では、和太鼓や三味線を用いて礼拝をしたことも。音楽・言葉・沈黙は組み合わせ次第で礼拝を大きく変える力があります。長い目で見て、意識的に礼拝作りをしていくことは、教会や、大学のキリスト教活動のあり方そのものに関わっていると考えています。

— 聖歌隊やハンドベルクワイヤは教会員から構成されると思っていましたが、信仰をもった方もそうでない方も、教会員でない方々も多くおられます。多様な人が集まっているのがICUらしいなと感じたのですが、それも特徴なのでしょうか？

北中：そうかもしれません。学生をはじめ、人の出入りの比較的多い大学教会ですから、メンバーシップを超えたフェローシップに支えられて成り立っていることも少なくないと感じます。



JICUF設立70周年記念晩餐会にて 竹内弘高理事長による基調講演が行われた

2019年9月13日、ニューヨークで日本国際基督教大学財団 (Japan ICU Foundation: JICUF) の設立70周年を祝う晩餐会が開催され、米国各地と日本から113名の卒業生と関係者が参加した。基調講演では、竹内弘高理事長がICUの使命について語った。その模様をお伝えする。

文：朽木ゆり子 (本誌) 写真：Kristie Chua

JICUFは、国際理解と協力に貢献するリーダーを育てるための大学を日本に開設する目的で1949年に設立され、アメリカにおけるICU建学募金活動の中心となった非営利団体だ。創設期にはキャンパス施設の建設資金や運営費の支援を行い、海外からの教員の給与支払いなども行っていた。その後、日本の経済発展にともなって活動は徐々に縮小し、1991年にはオフィスが一時閉鎖されるが、JICUFの元理事、ドナルド・オスマー夫妻による多額の寄付で1999年に活動を再開した。

現在は、ICUに留学するシリア人学生や米国人学生のための奨学金や、学生・教員対象の各種助成金を提供し、グローバルリンク・プログラム(学部生対象にニューヨークで夏に行われるキャリア・プログラム)などを実施している。また、北米在住の入学希望者募集や卒業生の活動支援も行っている。

70周年記念晩餐会が行われたのは、マンハッタンのハドソン川を望む122

丁目にあるリバーサイド教会。13世紀フランスのゴシック教会をモデルにした石造りの荘厳な建物のホールにディナーテーブルが美しくレイアウトされた会場で、6時半からレセプションが行われ、参加者が三々五々集まった。シャンパンでの乾杯の後、ドロレス・ローダー元JICUF理事と日比谷潤子ICU学長が祝辞を述べ、続いてポール・ヘイスティングスJICUFエグゼクティブ・ディレクターがJICUFの歴史、現在の活動や将来の方向性を語った。

基調講演は昨年6月にICU新理事長に就任した竹内弘高ハーバード大学経営大学院教授。竹内氏はICU卒業生として初めての理事長で、1969年に卒業した9月生30名のうち5名の男子生徒のひとりだった。当日一緒に出席した信子夫人もICU生。ICUとの最初の出会いは、1964年の東京オリンピックで優秀なICU生と一緒に通訳を務めたことで、これでICUに進学したい

と思ったと回想した。

竹内理事長はスライドを駆使して、ICU時代に勉強以外にサッカー、演劇、ディベートなどに打ち込んだこと、その後カリフォルニア大学バークレー校で経営学を学び、修士号と博士号を取得し、一橋大学やハーバード大学で教鞭をとるようになったことを、ユーモアを交えながら話した。

ICU卒業後、竹内理事長はいくつかの節目で国際コンサルティング企業で働くことを考えたが、バークレー時代からのよきメンターである野中郁次郎一橋大学名誉教授の影響もあって研究者の世界で活躍してきた。野中教授との最初の共著(*The Knowledge-Creating Company*, 1995年)は全米出版家協会のベスト・ブック・オブ・ザ・イヤーに選ばれており、この基調講演が行われた2019年秋にはその続編ともいえる*The Wise Company* (共著) が出版されている。

竹内理事長はICUの使命は国際的社

会人としての教養を持ち、人に奉仕し、恒久平和の確立に貢献する人材を育成することにあり、こういった人材は課題の多い21世紀にかならず必要とされると指摘。そしてICUコミュニティ全体に対して、paying back (恩返し) とpaying forward (恩送り：恩を受けたら、恩や親切を誰か別の人に“渡す”) を呼びかけて、講演を締めくくった。

晩餐会では、1期生の露木ローレンスさんから、62期生で現在教養学部3年生の鈴木晴子さん(ラトガース大学留学中) や山下莉紗子さん(休学して、ニューヨークでボランティア活動中)まで、様々な世代と国籍のICU生とゆかりの方が語り合っ、70周年に相応しい夕べとなった。

(この記事はJICUFの協力によって執筆されました)

自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ 多言語自然キャンプ

世界中に
友だち
つくろう!

小学生～大学生年代を中心に、多言語・多世代の人々が自然の中で活動し、国や文化の違いをこえて友情を育むプログラムです。

【国内キャンプ】(3泊4日・長野・小4～大人)

- 雪の学校：雪の活動と多世代・多言語交流。
- Nature Camp: 夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】(1週間前後・8月開催)

- アジア青少年多言語自然キャンプ&ホームステイ
中1～大人。タイでの自然体験と現地家庭でのホームステイ。
- アジア青年多言語合宿&ホームステイ
高1～大人。上海の研修施設での合宿と現地家庭でのホームステイ。



Multilingual Natural Immersion どんなことばにも開かれた心を育てる



多言語を学ぶ意味

大和田康之 (国際基督教大学1期生)

私がこれから担う真のリーダーシップについて必要だと思うのは「多言語を話す」というスタンスです。多言語を話すということは、「違ったことば、価値観を持った人を自分の中に受け入れる」ということです。それは自分が人間としてより豊かになることです。ヒッポではまず相手の言語を大切にしようというスタンスで手言語を学んでいます。そんな世界がひろがっていくことに、ことばを学ぶことの本質的な意味があるのではないのでしょうか。

●お問い合わせは、下記フリーダイヤルまたはホームページから

第5回 ICU同窓会リベラルアーツ公開講座 「リベラルアーツとしての演劇教育」

ICU同窓会が主催する、リベラルアーツ教育のすばらしさを伝える公開講座が2019年12月15日、日比谷図書文化館・日比谷コンベンションホールで開催された。講師はICU卒業生で劇作家の平田オリザ氏。公募した大学生・高校生18名が参加するミニ演劇ワークショップと講演の2部形式で進行した。

文：星川菜穂子（本誌） 写真：新井亮一（32 ID88）

ミニ演劇ワークショップは、にぎやかに始まった。舞台上上がった学生たちに平田オリザ氏が「好きな色は？」「好きな果物は？」「今行ってみたい国は？」と問いかけ、全員が思い思いの回答を口にし、同じ回答を発する者同士でグループを作ってその場に座る。

会話を生む「仲間探しゲーム」

「ベルギーって思い浮かべるものは？」という質問には、チョコレートを食べる学生が大半で、何も思い浮かばないという意見も少なくなかった。そこで平田氏がベルギーで仕事をしてきたとき、ベルギー人に同じ質問をすると一番多い回答はフライドポテトだったと明かす。こうしたやりとりによって、自国のイメージとよその国の人から見たイメージの違いや共通点を知ることが国際交流プログラムでも役に立つ。

また、この手法がもっとも有効なのが小学校のクラス開きだ。クラス替えをしてまもない頃にホームルームでこのゲームを繰り返すことで互いに共通点を見つけ、会話するきっかけが生まれる。中高一貫校で増えているディスカッション、ワークショップ型の授業でも、冒頭でこれを行うことによって自らの意見を声に出すことに抵抗感がなくなり、その後の発言率がぐんと上がるという。

最大の強敵は日本の中学1年生

年間30～40校の小・中学校で授業を重ねる平田氏が世界中でもっとも強敵というのが日本の中学1年生だ。演劇をベースとしたコミュニケーション教育が浸透していない日本では、思春期を迎えた13歳の生徒たちは恥ずかしがってゲームにきちんと参加しようとしなない。「好きな果物は？」と聞いても男子同士で相談して回答を決めてしまう。そこで男女混合のグループを作るにはどうするか。生まれた月やきょうだいなど、自分では変えられないもの、嘘のつけないものを問いにするとスムーズに進み、生徒たちもゲームに楽しみを見出すようになる。こうした参加型・双方向型のワークショップの強みは、個人の履歴を大切にすることで居場所を作りやすく、役割分担しやすいことだと平田氏は語る。

続いて、東日本大震災で被災した福島県の高校で平田氏が取り組んでいる演劇教育に話題が及んだ。スーパーグローバルハイスクールに指定されて

いる福島県立ふたば未来学園高校では「産業社会と人間」の授業の一環として、1年生が一年間かけて今の福島が抱える課題をテーマに劇を作る。生徒たちが発見した福島の現状、県内外の意識差などをいかに県外の人に伝え、共感してもらうか。他者に伝えるツールとしての演劇を学ぶ重要性を平田氏は説く。

「活発」と「おとなしい」

次に、1～50の数字カードが配られ、その番号に応じて役割を演じるゲームが行われた。全員が初対面のパーティーという設定。数が大きいほど活発な趣味、少ないほどおとなしい趣味を持ち、自分ともっとも近い趣味の人を探してペアを作る。ただし、相手に自分の番号を伝えてはいけない。最終的にもっとも番号の近いペアが勝ちとなる。その結果、数字がひとつ違いのペアが勝利を収めた。なかには16も差のあるペアもいた。ここで大切なのは、勝ちたいのなら相手に趣味を聞くだけでは足りないということだ。活発、おとなしいといっても各自基準が異なり、相手がどんなつもりで言葉を使っているか、自分の使う言葉との間にずれはあるのか探らなければならない。

実はそれは普段のコミュニケーションで無意識にやっていることなのだと平田氏は指摘する。ゲームになると表面的な情報収集に走りがちだが、普通はその人のことを知りたいから趣味を尋ねる。その相手が同世代の若者ではなく大人である場合、または異文化で育った人の場合はどんなやりとりがふさわしいか。自分と他者の間で通常なされているコミュニケーションを自覚し、どんな場合でも能力を発揮できるように慣れさせることが大学におけるコミュニケーション教育のあるべき姿ではないかと平田氏は結んだ。

コンテキストのずれ

休憩をはさんだ講演では、昨今声高に提唱される「グローバルコミュニケーション」について平田氏の見解が示された。コミュニケーションの7～8割は文化に根ざしたマナーや習慣であり、そのマナーを知っているか知らなかでコミュニケーション能力の優劣が決まるわけではない。それよりずっと重要なのは、文化に多様性があることを知り、その国ではどんなコミュニケーションがふさわしいのか考える好奇心と、自国の文化を押しつけない謙



日比谷潤子学長と



学生たちの参加で盛り上がった演劇ワークショップ

虚さで、それこそがグローバルコミュニケーションの出発点だと平田氏は語る。つまり、相手のコンテキスト（文脈）を理解し、意図をくみとり、共感すること。こうした異文化との接触を若いうちに経験すると、より柔軟に対応できるようになる。

ただ、人は互いの文化がまったく異なる場合はその違いを意識しやすいが、微妙なコンテキストのずれには気づきにくく、それが落とし穴になりえる。近い国同士の日韓関係も然り、同じ言葉を話す日本人の間でも「そのつもりだと思ったのに」というコミュニケーション不全はよく起こる。役を演じる演劇の手法を用いると、そのずれに気づき、すり合わせる行為の大切さを学生たちが身をもって自覚できる。

入試改革で問われるもの

教育の現場で広まるこうした参加型のアクティブラーニングは、2021年度入試から新テストが実施される大学入試改革でも顕著だ。主体性・多様性・協働性を問うような試験作りが求められるなか、大学側も新しい取り組みを進めている。例えば、平田氏が学長特別補佐を務める四国学院大学では複数名で巨大なレゴ艦船を作ったり、あるテーマに基づいてディスカッションドラマを作ることなどを推薦・AO入試



平田オリザ (30 ID86) HIRATA, Oriza

劇作家・演出家。1962年東京生まれ。ICU在学中に青年団を旗揚げする。1986年卒業。代表作は『東京ノート』『その河をこえて、五月』他。岸田國士戯曲賞、朝日舞台芸術賞グランプリなど受賞多数。フランス、韓国、ベルギー、中国などでの海外交流にも力を入れる一方、大阪大学COデザインセンター特任教授、東京藝術大学COI研究推進機構特任教授他の職に就き、日本における演劇教育の地平を切り拓く。その演劇ワークショップの方法論は小・中学校の国語教科書にも採用された。2021年に開学する兵庫県立国際観光芸術専門職大学（仮称）学長に就任予定。青年団 www.seinendan.org

で始めた。そこで主に評価されるのは、自分の能力に応じてグループに必要な役割を果たせるかどうかだ。アクティブラーニングをつきつめると、学びの場で大切なのは何を学ぶかよりも誰と学ぶかで、それこそが今後の大学の存在意義だと平田氏はいう。いろいろな人がいることで授業が活性化。大学のなかに多様性を確保できないと生き残れない時代はもうすぐだ。

200人収容のホールは満席で、公開講座は大盛況のうちに幕を閉じた。

The ICU Festival 2019

2019年11月3日(日)、4日(月)にICU祭が開催された。会期中、同窓会企画イベントとして、前三菱商事パキスタン総代表の安藤公秀氏(26 ID82)を招いて「DAY受賞者トーク」を開催。また、大学・同窓会共催「ホームカミング」では、「本館と理学館、その未来を探る」として大学から最新の状況や展望の説明、同窓生による新校舎に関するショートプレゼンを行った。アラムナイラウンジでは恒例の「アラムナイカフェ」やICUグッズの販売、テント企画としては、(株)Health Education代表取締役で、ファミリーカイロプラクティック三鷹院院長の佃隆氏(44 ID00)による「チャリティ整体」が行われた。その模様をお伝えする。



DAY受賞者トーク・安藤公秀氏(26 ID82)

文・写真：安楽由紀子(本誌)

ICU祭2日目の11月4日(月／振替休日)、アラムナイハウス2階・ラウンジで「DAY受賞者トーク」が行われ、前三菱商事パキスタン総代表の安藤公秀氏(26 ID82)が「パキスタンとかで考えたり、やったこと」と題してトークを行った。会場は満席となり、同窓生の関心の高さが伺えた。

安藤氏は、1998年から2003年までパキスタンに駐在。また2010年から2019年3月までは三菱商事パキスタン総代表として再びパキスタンに駐在し、合計14年間、日本とパキスタン両国の架け橋として貢献。2018年3月には外国籍の民間人に授与される最高の勲章「パキスタンの星」最高栄誉賞を受勲した。

トークのタイトルがパキスタン“とか”となっているのは、パキスタン以外にもイラク、サウジアラビア、インドネシアなどに駐在経験があり、2019年11月末で三菱商事を定年退職した後は自身の会社を設立し、これまで築いた各国との関係を生かした仕事を

を今後も続けているためだ。

トークは安藤氏の経歴、業績からパキスタンという国の紹介まで及んだ。パキスタンというとなじみが薄い日本人も多いかもしれないが、安藤氏によれば「パキスタンの人たちは親日」なのだそうだ。

「日本はODAとしてトンネルや道路などインフラ整備を支援しています。また、1980年代に合弁会社を設立したスズキを筆頭に各自動車メーカーが進出しており、パキスタンを走る自動車の99%が日本製と言われています。日本は戦後経済を再建していくためにパキスタンから綿花を輸入し、ともに繊維産業を発展させてきたという歴史もあります」

トーク中、安藤氏は勲章(写真右)を客席に回して触れさせてくれた。想像よりもずっしりと重みがあり、日本とパキスタンの友好の月日の重みと重なった。

リベラルアーツを学び、世間の情報から自由になる

パキスタンは正式名称をパキスタン・イスラム共和国と言い、イスラム教を国教としている。その中で長い間暮らしてきた安藤氏は次のように語った。

「学生当時は響かなかった『リベラルアーツ』が最近になって響くようになってきました。リベラルアーツとは、自由を得るすべということ。では、何に対しての自由か。それは“世間一般”からの自由だと思います。ダブルスタンダードやステレオタイプで世の中を判断するのは簡単ですが、それを常に第三者的に見て、クリティカルシンキング、宗教学、哲学などを含めて自ら判断する力がリベラルアーツ。パキスタン駐在時は常にダブルスタンダード、ステレオタイプとの闘いでした。2017年に米国・ラスベガスのホテルから銃を乱射し多数の犠牲者が出た事件がありましたが、あの犯人は白人だ

から米国では“狂人”と呼ばれていますが、仮にイスラム教徒であれば“テロリスト”と呼ばれます。何か悲惨な事件があったとき必ず犯人はイスラム教徒かそうでないかが問われる。イスラム教徒にしてみれば、テロリストはイスラム教徒ではありません。世の中の流れを客観的に見て、自分が踊らされている情報、みんなが踊らされている情報から自由になることがリベラルアーツだと私は解釈し、ICUの教えはとても大切なものだと思います」

高度外国人材の活用が推進されている日本社会。安藤氏のトークはパキスタンだけでなくさまざまな国籍の人々とともに生きていく上でとても示唆に富んだトークだった。

安藤公秀 ANDO, Kimihide

2019年3月まで三菱商事パキスタン総代表としてパキスタンに駐在。14年にわたる日・パ両国の架け橋として貢献し、2018年3月に「パキスタンの星」最高栄誉賞を受勲した。ビジネスだけでなく両国の文化交流にも幅広く活動している。

腰痛・肩こり・頭痛を改善したいあなたへ

ICU卒業生の佃隆(44期ID00)とパートナーの佃美香が25年間運営しており、毎年1万人以上の方が来院されています。三鷹駅南口徒歩1分の当院には、ICU関係者の方が来院者の4割を占めています。当院では、関節の動きが鈍く神経の流れが悪くなっている箇所とあなたの症状との関連性を分析し、症状の原因を特定します。独自のつくだ式カイロプラクティックケアによる治療、「姿勢の魔法」シャキーン!メソッドによる知識、パーソナルトレーニングエクササイズによる運動の3本柱によって、症状改善だけでなく、姿勢矯正、ひいてはあなたの理想の暮らしを送る健康サポートをします。ICUとご縁のあるあなたのお役に立てましたら幸いです。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

ICUアラムナイニュースを見て...とお電話ください。〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-7 平瀬ビル301号室

tel **0800-888-4270** 受付時間 ▶ 8:30~20:00

web <http://mitaka-chiro.com>



当院院長佃隆は
■1日3回で、ねこ背がよくなる「姿勢の魔法」シャキーン!
■姿勢をよくすると、人生がきらめく!
の2冊を出版しております。



FAMILY CHIROPRACTIC

知識 運動 治療

の3本柱であなたをサポートします!

ホームカミング 本館と理学館、その未来を探る

大学の施設については、2019年7月に大学から本館、理学館、旧D館の改修と新校舎の建設が発表された。ICU祭初日の2019年11月3日に開催されたホームカミングは、大学から最新の状況や展望の説明、同窓生の新校舎に関するショートプレゼンというプログラムで、こじんまりした集いではあったが、ICUらしくユニークで多様性が溢れる場になった。

文：長谷川 攝 (24 ID80)
写真：サマンサ・ランダオ (ID G2008)

大学からのお話

まずは、新井理事から詳細な現状分析を聞きました。約半分が90年代までの古い施設だそうで、随分と新しい施設が増えたと感じていたID80の筆者には驚きでした。経年劣化が進んだ設備は、本館の空調設備の老朽化、天井の漏水、教室不足、理学館の内装・空調の激しい劣化や特大教室の問題など課題が山積み。本館、理学館、旧D館、教職員住宅、空調設備、自然環境整備、周回道路舗装などの大規模修繕と新校舎建設と、新井理事が「ICUの歴史上最大規模の未来への投資プロジェクト」と呼ぶのも頷けました。新校舎には理学館から理学系講義室、研究室・実験室等が移転し、本館の西側後ろに2022年完成予定だそうで、本館・理学館の改修とも時間差で連動する大掛かりなプロジェクトとなります。続いて、D館修繕委員会委員長の加

藤恵津子先生。「Project Dの挑戦：明日の大学、未完の学生会館」のタイトルで、旧D館は何のために、どこに向かうのか、お話を聞きました。まずD館&学生の今昔比較。昔は日本初、先進的な建築の学生会館で部活を越えた交流の場でしたが、今の学生のたまり場は新D館や新学生食堂に移り、1階は閑散としています。加藤先生は、旧D館を「ICUの理念」のメッセージャーとして、留学生、帰国生、障がいのある学生、LGBTQ+の学生、部活やサークルに入っていない学生、人づきあいが苦手な学生など、「多様な学生の〈個〉としての自立と対等で温かな交流の場」にしたい。明日の大学、未完の学生会館として進化し続けて欲しいと強調されました。

同窓生のショートプレゼン

経験も視点の異なる3人の同窓生が、それぞれにユニークなショートプレゼンをしてくれました。

トップバッターは建築を学び設計事務所にお勤めの浅野雄太さん(45 ID01)。題して「リノベーション発想の場づくり」。生きた「場」にするのはヒトである。既存のモノ・コトを新たな視点で見直し新しい価値を見出すことを「リノベーション」と呼ぶ。建物は出来上がった瞬間からリノベーションの対象になるのだ。新校舎の場合、位置は外からアクセスが遠い最奥部だが、人の往来が少なく落ち着いた学びの空間の中心になれる。それはじっくりゆっくり知的好奇心を醸成する場所と捉えることができるのではないかと提案しました。

次は、歴史の観点から「未来と残像」と題して、ICUアジア文化研究所の岸佑さん(47 ID03)。大学としては学生のために未来を向くのは当然、しかし、「記憶」あるいは「残像」も大切にしたいというご提案でした。例えば、本館の写真はバカ山から斜め

に見たものが多い。もし高層の建物が後ろに立つと残像と重なる景色が変わってしまう、それでいいの。「建物は記憶が宿る場所なのだから大切にしなければならぬ」(ヴォーリズを引き継いだ元ICU顧問建築家・稲富昭)のメッセージと新校舎に「名称」をつけると良いのではというご提案で締めくくられました。

トリを務めたのは言語学で入学、生物学で卒業、今は弁護士を務める松本典子さん(45 ID01)。「元リケジョからの提案」と題するプレゼンでした。何をやっているのか理解されない、実験が終わるまで帰れず遅くなるなどの理系学生の悩みが披露され、実験をしている姿を見てもらうために「魅せる実験室」、待つのが辛いから居心地のいい場所が欲しい、帰りが遅くなるからガラス張りの外観で帰り道を明るくして欲しいと、どれも切ない悩みと経験に基づくアイデアでした。

チャリティ全体 ICU祭の来場者を診て18年、チャリティ全体に幕

背骨や骨盤のゆがみを手で矯正する「カイロプラクティック」を体験できるICU祭の人気企画「チャリティ全体」。2019年のICU祭を最後に、18年の歴史に幕を閉じることになった。夫婦で毎年約150人の来場者を診てきたファミリーカイロプラクティック三鷹院の佃隆院長(44 ID00)から話を聞いた。

文・写真：滝沢貴大(本誌)

ICU祭最終日の11月4日(月)、本館前の同窓会ブースに設けられたチャリティコーナーには絶えず人の列ができていた。佃夫妻は一人ひとり、肩や背骨を触って姿勢のゆがみを検査し、骨格模型を使い説明、姿勢を改善する方法を紹介した。整体を受けた、在学生の保護者の池田岳浩さん(53歳)は「骨の模型を使った説明は非常にわかりやすかった。教養に基づいた整体で、ICUらしさを感じた」と話していた。

佃さんがカイロプラクティックと出会ったのは中学3年生のとき。小学1年生のときに野球の金属バットが直撃して大けがを負い、以来ひどい関節痛や自律神経失調症、不眠症などの後遺症に悩まされた。病院に行っても症状は癒えず、すがる思いで受けたのがカイロプラクティックだった。「体が劇的に改善し、まともな生活が送れるようになりました。ICUに入れたのもカ

イロのお陰です」と佃さんは話す。ICU在学中の1999年7月には、大学4年生にして自らカイロプラクティックの治療院を開業した。「あまり知られていないカイロを広めなくてはという使命感もあったし、高校生のころから起業家に憧れていたこともあった。当時、私のカイロの先生だった今の妻の後押しもあり、開業を決意しました」。治療院を運営しながら、ICU在学中は専門学校とのダブルスクールで、卒業後は米国やオーストラリアの大学の授業を受け、カイロプラクティックの知識を深めたという。

ICU祭でのチャリティ全体を始めたのは2002年。できたばかりのアラムナイハウスへ人を呼び込むための導線として、同窓会のテントを図書館の近くに設置することになり、当時同窓会の理事だった佃さんに白羽の矢が立ったという。「キャンパスを訪れる卒業

生や地域の方が居心地良く過ごせる手助けになればと思い始めた」と佃さん。あくまでチャリティ企画、大きな収益は得られないが、思わぬ収穫もあったという。「ICUの皆さんはクリティカルシンキングが素晴らしく、するどい質問を何度も受けた。答えられるようにするためにテキストづくりを進めた結果、カイロへの理解も深まり、臨床の役にも立った」。このときのテキストをもとに、2冊の本も出版したという。

18年間で治療院の客も増え、学校や自治体、企業での講演に加え、他の治療院の経営支援にも携わるようになった。準備や片付けも含め、毎年ICU祭へ出店する負担は少なくなく、今回で最後にすることを決めた。佃さんは「残念というより、我ながらよくやってきたと思います。ICU祭への出店は最後ですが、『ICU医療関係者の会』

や『ICU同窓会三鷹支部』、『ICU00同期会』など、同窓会での活動は続けていきたい。卒業生をつなげるサポートができれば」と話した。



佃隆(つくだ・たかし) 1977年4月生まれ。三重県津市出身。国際基督教大学卒業。オーストラリア公立マードック大学(健康科学学部カイロプラクティック学科)卒業。首都大学東京大学院(都市科学研究科)修士課程中途退学。ICU在学中の1999年、三鷹市でカイロプラクティックの治療院を開業。2016年に移転し、同市内に国内最大級の規模の治療院を開いた。著書に『1日3回で、ねこ背がよくなる「姿勢の魔法」シャキーン!』(2016年)、『姿勢をよくすると、人生がきらめく! 身体と心を整える「姿勢の魔法」シャキーン!の奇跡』(2018年)など。

小特集

震災から8年の福島をたずねる 米国からの視察ミッションに参加して

2019年9月17日から19日まで、福島県の東京電力福島第一原子力発電所(以下、福島第一)をメインとする視察旅行に参加する機会に恵まれた。「2019 Fukushima Mission from USA, Love to Nippon Project」と銘打ったこの企画は、2017年のDAY(Distinguished Alumni of the Year)受賞者のお一人である、79年卒の鶴浦-TANAKA真紗子(UNOURA-TANAKA, Masako)さんが発起人で、2011年3月の東日本大震災以降、鶴浦さんがお住まいのロサンゼルスで毎年開催してきた追悼集会を通じて広げた人の輪から視察旅行への参加者を募られたもの。幸運にも同窓会にも参加枠をいただき、あと2人の同窓会メンバーと急遽同行させていただいたこの視察旅行についてご紹介する。全行程は9月21日までの5日間。視察団はいわき市から会津まで県内を回ったが、筆者は全旅程に参加できなかったことと紙幅の関係から、福島第一とその周辺地域の見学内容を中心にしたい。

文・写真：新村敏雄(本誌)

9月18日(2日目) 福島第一訪問

宿泊先のJヴィレッジを9時に出発。1997年に日本初のサッカーナショナルトレーニングセンターとしてオープンした「Jヴィレッジ」は、3.11後復旧作業の拠点としてグラウンドは駐車場に、宿泊施設は作業員の宿舎にあてられた。2019年4月ようやく全面再開し、視察団が到着した前日は、ラグビーワールドカップに出場するアルゼンチンチームが滞在していた。部屋から見渡せるピッチは見事に整備され、夜明け直後は息をのむほど芝生の緑が美しかった。



Jヴィレッジで集合写真

福島第一に入る前、日本原子力研究開発機構が運営している楢葉沿革技術開発センターという施設を訪問。廃炉に向けては、燃料取り出し、燃料デブリ取り出し、原子炉施設の解体と長期間にわたって危険を伴う作業を行うため、ロボットなどの遠隔操作が不可欠な技術となる。センターではそうした技術の試験開発を行っているほか、我々一行は、原子炉建屋内のバーチャルリアリティシステムを体験させていただいた。廃炉という危険と常に隣り合わせの事業の難しさや、時間が膨大にかかるであろうことが理解できたところで、福島第一へ向かった。

恥ずかしながら、福島第一の敷地内を見学できるとは今回の視察旅行まで知らなかった。ただ、希望すれば誰でもいつでも見学できるわけではないようで、その点においてこの視察旅行は大変貴重な機会であり、見学にこぎつけるまでの鶴浦さんのご尽力には感謝しきれない。

敷地内は当然ながら、すべて撮影禁止。バスを降りると、見学についての

ガイダンスを受けた後、廃炉などの作業に従事する多数の労働者が利用する社員食堂で昼食を取らせてもらった。

その後、専用のバスに乗り込み、敷地内をめぐる。出発直前まで、原子炉のそばまで行くのであれば、車の中でも防護服のようなものを着る必要があるのだろうか、などと漠然と想像していたが、バスの中では特にマスクをかけたつもりもせず、メンバーが持っていた線量計も大きくは動かず、自分の不勉強さを思い知らされた。

同乗した東電社員の方の説明を聞きながら出発したバスは、まず多数の処理水貯蔵タンクの間を進んでいく。その中には、燃料デブリの冷却に使われ放射性物質を含んだ汚染水を処理した水が貯蔵されており、タンクの数が増え続けているという。当初は100トンタンクを使用していたが、汚染水の増加に追いつかず、現在は1基1000トンクラスになっているようだ。構内にはそこかしこに線量の表示装置が立っている。全部で90箇所。危険なエリアには近づかないとわかっていても、気持ちが緊張するのを止められない。バスは原子炉があったエリアに入っていく。

水素爆発した1号機は建屋内部で瓦礫の撤去作業が行われているという。放射性物質の飛散を防ぐため、今後全体をすっぽりと覆うドームのような建物が建てられる計画と報道されている。

1号機の爆発で建屋の壁が一部破損したため水素爆発を免れた2号機との間には、放射性物質で高濃度に汚染された高さ120メートルの排気筒の解体作業が始まっているが、周辺の線量が高いため、離れた場所から遠隔操作で最上部から数メートルずつ輪切りにしていくという、気の遠くなる作業だ。

2号機は4機の中で唯一残った建屋の南側に、燃料デブリなどを取り出す作業に使う重機などを設置できる建造物(燃料取り出し用構台)を建設して建屋へアクセスし、燃料を搬出するが造られていた。4号機も使用済み燃料の取り出しは完了しており、外観もものしらは感じられない。

しかし、3号機は全く異なる様相を

呈していた。12月にニュースで3号機内部の映像が公開されたが、9月時点でもバスは崩れた外壁の横を通り、そこに立っている線量計の数値もほかのものより際立って高かった。それまで比較的冷静だった視察団メンバーが思わず声をあげる光景だった。

国道6号線、 富岡町・夜ノ森地区 富岡町・復興メガソーラー 「SAKURA」

Jヴィレッジがある広野町から福島第一までは約20キロ。その間を結ぶ国道6号線は、一部に放射線量が高い帰還困難区域を含む避難指示区域で、途中の富岡町から福島第一がある大熊町(1~4号機)と双葉町(5、6号機)までの区間は、バイクなど体を露出する乗り物では走れない。ほぼ平行して走る常磐線も、富岡一浪江駅の区間は9月時点では不通で、20年3月末に9年ぶりに開通する予定だ。

「浜通り」と呼ばれる福島県の太平洋沿岸地域は、呼称から持っていたイメージと違って海から少し内陸に行く高い山々が南北に連なっていた。そこを西へ越えると東北新幹線が走る「中通り」、さらに西へ行くと「会津」だ。浜通りでは、場所によっては海にほど近いところを国道6号と常磐線が南北に走り、もう少し内陸に常磐自動車道がある。国道6号は土地の人たちの生活道路だ。

しかし、福島第一がある大熊町と富岡町の国道6号沿いには、人の姿といえば汚染土壌の除去をしているらしい作業員ぐらいしかいない。レストラン、ゲームセンター、一般住宅、衣料品店。目に入る建物は窓ガラスが割れ、看板は色あせ、人の背丈ほどの雑草が生い茂る。ところどころ、パワーショベルが動き回り、その周囲に巨大な土のうのような黒い袋が数え切れないほど並べられている。8年を経てもなお人が住めないとはどういうことなのか、いやというほど思い知らされる光景が眼前に広がる。

通りを走る車両は平日の昼間とあって、おそらく汚染土壌を積んでいるで



営業できず放置されたガソリンスタンド

あろう大型のダンプが多い。

福島第一からホテルのJヴィレッジへ戻る途中、常磐線が不通になっている区間に、富岡町の夜ノ森地区がある。ここは震災前は「浜通り随一」とも言われた桜の名所とのことで、片側1車線の通りが2.5キロにわたって桜並木だが、福島第一の事故により帰還困難区域に指定された。ところが、場所によっては通りをはさんで避難指示が解除された区域がある。

バスを降りて通りに立つと、避難指示解除区域には新たにギャラリーを開設するための資材を積んである民家がある一方、通りの反対側には敷地へ入れないように設置された折りたたみのフェンスの先に、人気のない住宅が立ち並ぶ。家の前に停めてある自家用車だろうか、後部の窓ガラスがなくなっている。2階建てが多い住宅は、震災から8年を経てもなお新しくみえ、窓にはレースのカーテンと、住民が飾った人形がみえる。

バスを降りた場所から200メートルほど先は、通りにバリケードが置かれ、その先に続く住宅街へは近づくことすらできない。桜並木は植えてから20年もたっていないだろうか、高さは6メートルほどだが、まだ元気な葉をたくさん残していた。



夜ノ森地区の住宅

津波はここまでは来ていない。地震で建物が損傷したわけでもない。そし

て、そして広くない通りの向こう側には普通の生活がある。そんな環境の自宅に住めなくなってしまった住民のくやしさに思いを馳せた。

同じ富岡町で、田んぼにソーラーパネルを敷き詰めて発電しているのが、富岡復興メガソーラー「SAKURA」だ。原発事故で稲作ができなくなった田んぼを利用し、再生可能エネルギーを生み出し、それを売っている。案内して下さったのは地元農家のお二人。パネルは約11万枚で、発電量は一般家庭9100世帯の年間消費量に相当するという。「パネルが隠れてしまわないように除草するのがなかなか大変ですよ」と笑っておられた。敷地の一角に小さな展望台が造られていて、上まで上がるとそのスケールがよくわかる。米作りができなくなった状況を逆手にとったような、しぶとい事業転換。拍手したくなった。

9月19日(3日目) 浪江町、請戸地区 フィールド学習

再び国道6号を北上し、福島第一から6キロ北の浪江町へ。富岡駅で折り返している常磐線は、北側からは浪江駅が折り返し地点となる。ここでは、復興をめざすNPOの方にお話をうかがい、町内を案内していただいた。

あの日、震度6強の揺れと15メートルを超える津波に襲われた浪江町は、6平方キロが浸水し、町内の死者182人のうち、家屋倒壊による圧死は1人だったという(行方不明31人)。

そして、浪江町の20%は線量が低かったにもかかわらず、原発から半径20キロ圏内に避難指示が出されたため、町内で2万1000人超が避難対象に指定されてしまった。ガイドの方によると、19年7月時点で帰還したのは733世帯1126人とどまるという。「それでも私達は、ここで生きよう、と励まし合っています。逆境の中でも、命があれば復興は遂げられる、と信じるからです」。

駅前から出発したバスは町内の海

側にある請戸(うけど)地区へ向かい、まず漁港を見学。津波被害から立ち直り、17年2月、棧橋の一部復旧に伴い漁船の一部が戻ってきたという。岸壁の背後には巨大な堤防が完成していた。

続いて漁港からほど近い場所に立つ請戸小学校跡へ。金網に囲まれた小学校の建物は海岸から300メートルしかなく、1階天井まで津波が押し寄せ半壊状態となったが、震災遺構として保存されている。



請戸小学校の1階は津波で窓ガラスがなくなった

あの日、小学生たちは全員で教師に引率され、1キロほど西に見える大平山へと必死で歩きとおし、全員が無事だった。

生い茂る夏草や、防風林として育成が始まったばかりの若いマツの苗木と、苗木を風から守る木の柵の中にポツンとたたずむような請戸小学校から、大平山へは車なら5分もかからない。しかしあの日は避難しようとする住民の車が渋滞を引き起こし、津波に飲み込まれてしまった。

大平山は山というより高台だ。東へ眺望が開け、海が見える場所に津波犠牲者の鎮魂、町の復興、後世へ語り継ぐために建立された、黒御影の慰霊碑が立つ。背後には、一段かさ上げされた墓地がある。慰霊碑の脇に立つと、田んぼがあったあたりはほんの足元に見える。子どもたちはここで押し寄せた津波を目の当たりにしたのだろうか。結局、ここも安全とは言い切れなかったため、小雪のちらつく中を子供たちはさらに背後の丘陵地帯を通過して高速道までたどりつき、ようやく救助されたという。



大平山の慰霊碑

福島県庁訪問

浪江町で浜通り地区の視察を終え、福島県庁へ移動。まだ日程の途中だが、ここまで見てきたことを視察団がどう受け止めたか、そして海の向こうから復興を応援している立場からの要望を伝える機会を県や関係機関に設定していただいたという。このあたりが鶴浦さんのすごいところだと思わずにはいられなかった。

一人ひとりが思いを伝えていく。そもそもこの視察に参加すると決めるとき、家族や友人が「大丈夫なのか」と真剣に心配し、自身も不安がなかったわけではない、という人。福島第一の敷地内の様子や国道6号沿いの風景を目の当たりにして改めて衝撃を受けたという人。そして、それでも黙々と廃炉や除染の作業に打ち込む人たちを見て「状況は前へ進んでいる。福島

は、日本は大丈夫だ、と確信できた」という人。視察団の全員がアメリカから来ていたわけではないが、ポジティブな面を評価しようとするのが米国的だなと感心した。そして、「帰国したら我々が『フクシマはみなイメージしているようなフクシマではない。食べ物は安全でおいしいし、人は優しい。復興は着実に進んでいる』と誤解を伝えていく」と言っていたのが、日本人として嬉しかった。

最後に

鶴浦さんと3日あまりをご一緒したが、今回の企画の立案から県との折衝などの行動力もさることながら、その明るさと目配りの広さ、細やかさに圧倒された。言うべきときはびしっと言い、同時にユーモアも絶やさない。偉大な先輩に接することができて幸運だった。

唯一残念だったのは、これだけの企画がNHKの「おはよう日本」では「福島県が力を入れている『ホープ・ツーリズム』(観光により復興を支援する、といった意味か)」として取り上げられ、鶴浦さんが登場しなかったことだ。また別の機会に取り上げてもらえないかと思っている。



ウェディング・レセプション承ります
ご予算に合わせ、お料理のご注文に応じます。
同期会・サークルのお集まりなどのケータリングも、
ぜひご相談・お問い合わせください。

東京ケータリング(株) ICU食堂

TEL&FAX 0422-33-3519 携帯 080-3117-3203

e-mail: tck.icu-shokudou@chorus.ocn.ne.jp

WEDDING
at
ICU

ICU 教会の教会挙式のご予約は
ICU サービスにて承っております。

ホームページや Twitter,
Facebook ページもご参考に
お電話にてお問い合わせください。



株式会社 ICU サービス

国際基督教大学 本部棟2階 Mon-Fri 9:00-12:00, 13:00-17:00
TEL: 0422.33.3530 MAIL: info@icu-service.com



ICU サービス

(株) ICU サービスは国際基督教大学 100% 出資による事業子会社です。

○保険代理店事業 ○子供向け生涯学習講座 (ICU ジュニア キャンパス・キャンプ、ICU キッズ・カレッジ) ○不動産斡旋 ○イベントサポート

キャンパスの記念樹、どのくらいご存じですか？ 実はそこここに、管理には課題も

文・作図：新村敏雄（本誌）



大学のキャンパスには、もともとあった樹木、造成で植えられた樹木のほかに、教授、学生、職員など大学に在籍した方々、大学を訪問された外部の方々などから寄贈された「記念樹」が多数存在する。

誰でも真っ先に思い浮かべるのは、正門から続くマクレーン通りの桜並木だろう。寄付したのは米バージニア州リッチモンドのギンター・パーク長老会牧師であるジョン・マクレーン博士と呼びかけに賛同した米国市民、寄付の目的は献学記念とされている（出典：篠遠喜人「サクラ並木の道をとおって」）。

また、初代管理部長だった細木盛枝氏がキャンパス美化運動の一環として1965年に植えた、本館前の芝生の梅も、桜とならんで卒業生にはなじみが深いのではないだろうか。

記念樹はどうやってICUキャンパスへやってきたのか。大学図書館勤務の松山龍彦氏（32 ID88）が延べ2年あまりの時間を費やして分類・整理された資料によると、大きく以下の4グル

ープに分けられる。

- A. 顕彰・追悼・イベント記念
- B. 国際林プロジェクト
- C. Named Tree Project
- D. 希少種その他（参考）

件数でもっとも多いのはA。大学の発足時に募金に奔走してくださった方々、四半世紀の節目に在籍された方々、教鞭を執られたり大学の運営を担った方々、そして外部から訪問された方々が、ICUという場所への祝福や感謝の思いをさまざまな樹木に託していかれた。不慮の事故などで学生生活を突然断ち切られてしまった在学学生を追悼するために植樹された例もある。

Bは、かつて元教員のベンジャミン・デューク教授が主導して、各国の銘木を各国代表者（多くは大使）が植樹して世界平和の象徴となる森を作るというコンセプトでスタートしたプロ

ジェクト。ただ、コストや樹木の生育環境の問題で頓挫したため、キャンパス内の他の場所に移植され成長しているものもあれば、そのまま手つかずだったり枯死したものもあるという。

Cは1957年にJICUF（日本国際基督教大学財団）が始めた、寄付プロジェクト。JICUFの発案で50ドル以上の寄付者について、キャンパス内の樹木に番号の書かれた銅製プレートを設置・登録し台帳管理するもの。850本の木が台帳に記帳されている。成長、

枯死、伐採などの結果、現在では現物を照合確認できないものが多いそうだ。台帳および地図は大学が保管している。

Dはキャンパスを美しくする、緑化するといった目的のほか、経緯ははっきりしないがもともとこの地域にあった樹種ではないものという分類。花を咲かせる園芸品種も多い。

以下、ごく一部をご紹介します。番号は地図に記載したもの。項目は樹種（現在の所在地、植樹時期）、木にまつわるエピソード。

1 ソメイヨシノ
(マクリーン通り、1950年代前半)

マクリーン牧師らの寄付で購入された苗木の植樹には、大学総務理事などを歴任された茅野徹郎氏をはじめとする1期生も参加した。「隣接する富士重工(当時)には工場の残骸があり、それをキャンパス景観から隠すという目的がありました」(出典:学報The ICU No.36「Oral History」より)。

2016年2月28日付け日本経済新聞の「何でもランキング:一度は歩いてみたい国内大学の桜名所」で東日本2位となり、「600メートル覆うトンネル」と紹介された桜並木も植樹から60年以上の時を経て、近年は樹勢の衰えなどが懸念されている。大学同窓会が2014年に募集を始めた桜募金は2年で目標とする4000万円を達成し、補植や植え替えなどが進められているほか、2018年12月にスタートしたICU自然環境保全プロジェクトでも、

観察会や管理計画の更新などにより大切に後世へ残していくための取り組みが進行中だ。

2 アカマツ
(図書館本館前、1952年)

サンフランシスコ平和条約締結を記念して、秩父宮妃殿下が東ヶ崎潔ICU理事長、湯浅八郎初代ICU学長、評議員会議長鶴沢総明博士とともにお手植えされた。当初大学本館近くに植えられたが、図書館本館建築後、現在の場所に移植された。その根元には「平和記念 1952」と彫ってある小さな石碑があり、秩父宮妃、東ヶ崎理事長、湯浅学長とともに、大学創立初期の職員でキャンパス内の樹木管理をしていた「園丁 宮澤吉春」の名前も刻まれている。

3 メタセコイア
(図書館本館前、1967年)

ICU初代学長であった湯浅八郎博士

の在職記念として植えられた。

絶滅したと思われていたが1946年に中国・四川省で現存していることが確認されたメタセコイアは、1950年に米国から日本の「メタセコイア保存会」に送られ、そこから全国に広まったとされる。学内はほかにもエドウィン・ライシャワー博士やパク・テソン(朴大喜)延世大学長の来学記念(ともに1974年、教会堂付近)、第一男子寮第1回卒業生の卒業記念(1957年)で植えられたが、第一男子寮卒業生の木は寮の解体の際に伐採されたのか、確認ができないという。

4 イチョウ(本館前、1973年)、カイツカイブキ、イトスギ(本館前、1976年)

イチョウはICU第2代学長の鶴飼信成博士が献学25周年を記念して。全部で11本。カイツカイブキとイトスギ(大学本館に向かって左がイトスギ、右がイブキ)は第4代学長の篠遠喜人博士の退職記念。篠遠元学長は1957年に寄付を受けたレバノンスギを本部棟南側の芝生地に、献学25周年の1973年には当時のプール棟の南側にカレンボクを寄付されたが、カレンボクのほうは新体育館建設時に伐採されたとみられる。レバノンスギは長年の伐採の結果、本国でも希少種となっている。

5 リンゴ
(理学館東入り口前、1988年)

リンゴの実が木から落ちるのをみて「万有引力の法則」を発見した物理学者ニュートンの生家にあったリンゴの木は、接ぎ木により世界各国の科学機関に分譲されており、国内では小石川植物園にある。この株は、1964年に英国物理学研究所所長サザーランド卿から、日本学士院長柴田雄次博士に贈られた。寄付プログラム「科学史」の開設記念に植えられたICUの「ニュートンのリンゴの木」は、その小石川植物園にある木から分けてもらった由緒正しいもの。脇にもう1本あるリンゴ

の木は受粉用で、国内産。

2017年に虫害のため新苗購入計画が持ち上がったが、薬剤投入で復活した。

6 カイツカイブキ(マクリーン通り北側の一部、植樹時期は不明)

中島飛行機創業者の中島知久平が、かつて野川沿いにあった中島飛行機の花壇の生垣を移植したと伝わる。知久平が取得した中島飛行機三鷹製作所の敷地は、現在のICUキャンパスに加えて、元安田信託銀行グラウンド、現在の中近東文化センター、都立武蔵野公園、都立野川公園、SUBARU東京事業所、アメリカンスクールなどまで含んでいた。移植はICUによる用地買収の前だったことも考えられる。

7 ウメ(本館南側芝生、1965年)

初代管理部長だった細木盛枝氏がキャンパス美化運動の一環として植えた。球技や自転車乗りを抑止する目的だったと言われる。苗木は種から育てたもので、早咲き、遅咲きなど異なる種類がある。当初35本植えられたが、2019年9月時点では29本。

8 キンモクセイ
(櫻寮玄関左手、1985年)

1985年の日航機墜落事故で亡くなった元第一男子寮の故児玉洋介さんを追悼するため、同年10月、当時の第一男子寮寮生が寮の脇に植えた。寮の建て替えに伴い、櫻寮玄関左手に移植された。当時20歳の児玉さんは、夏季米国留学からの帰途、事故に遭われた。当時の新聞によれば、自宅に戻るため羽田でキャンセル待ちをして事故機に乗られたという。母校の芦屋高校の同期生有志が2017年に慰霊登山をされたそうだ。

さまざまなストーリーを持つ樹木の数々。桜祭りなどでキャンパスに足を運ぶ機会があれば、それらをたずねて、国際林やNamed Treeのプロジェクトの再開に、同窓生としてできることがないか、思いをめぐらせみてはいかがだろうか。

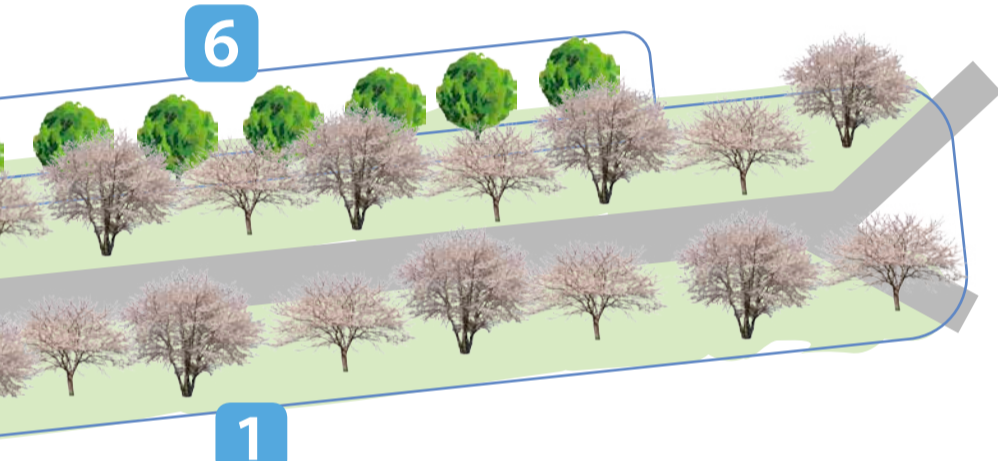


photo Mari Matsushima

PEACEMIND

私たちは、「はたらくをよくする®」会社です。

ピースマインドは、「はたらく人が抱える『不』を解決し、心豊かな未来を創る」をミッションに掲げ1998年に創業した「はたらくをよくする」ソリューションを提供している企業です。職場のメンタルヘルス・健康経営の推進、社員の離職予防・リテンション、ハラスメント対策等の課題をお持ちの経営者、人事の方からのご相談をお受けしています。また、当社のビジョン実現に向けて、国内外のグローバル企業の成長支援と一緒にチャレンジしてくれる仲間も募集しています。



ピースマインド株式会社
代表取締役社長・共同創業者
荻原 英人 (ID00)

Working Better Together®

「はたらくをよくする」ために、働く人と職場を支援する様々な専門サービスをご提供しています。



カウンセリングや職場・産業医との連携を通じて社員の悩みの解消や生産性の向上を支援



マネジメントコンサルティングや研修等を通じて人事・管理職の負担軽減と生産性の向上を支援



顕在化した職場の課題の解決から、未然防止策、いきいき職場づくりまでをトータルに支援

| | | | |
|---------------|---------|------------|------------|
| EAP従業員支援プログラム | 研修 | ハラスメント対策支援 | ウェルネスプログラム |
| ストレスチェック | クライシス支援 | 休職・復職者支援 | 健康経営支援 |

サービス開始から お取引企業 外資系顧客構成比

21年

1,000社/年

35%

03-3541-8660
https://www.peacemind.co.jp/

「キャリア相談会2020」開催報告

キャリアについて、先輩たちの「本音」をもとに考える

文：廣岡敏行 (31 ID87 同窓会学生部担当副会長) 写真：神田真司 (49 ID05)



学生向けの就職相談イベントである「キャリア相談会」が、雪の降る2020年1月18日(土)、ICUの大学食堂で開催された。例年通り今年も土曜日に授業がある学生を考慮し、ICUキャンパス内の学生食堂で開催した。あいにくの天気にも関わらず参加学生は約80人。また、悪天候に加え都心からの交通の便が良いとは言い難いキャンパスで開催したにも関わらず、ご協力頂いた同窓生は45人となった。また、イベント会場では、同窓会事務局と現役生の7人にもサポート頂いた。

同窓会が主催するキャリア相談会は、業界や企業に関するPR色の強い就職フェア等とは異なり、現役生に様々な角度から仕事やキャリアを考えるきっかけを提供する事を目的としている。更には、ICU同窓生ならではの本音が聞けるという、学生にとっては数少ない大変貴重な機会でもある。

相談会は、グループトークとフリートークの2部で構成されている。グループトークでは、同窓生2~3人に対して学生7~8人となるグループに分かれ、30分間のセッションを計4回

実施した。前半の2回は8つの「テーマ」、後半の2回は9の「業界」ごとのグループに分かれ、学生たちは自分の興味・関心がある価値観・テーマや、業界グループに加わり、先輩たちに積極的に質問し、その答えに耳を傾けた。昨年に続き、テーマ別トークでは、今年も「自分の価値観に見合った将来の進路を考える」を念頭にテーマを設定し、「専門性」や「国際性」といった、自分が大事にしたい価値観という、企業名や業界とは別の視点で将来の働き方について考えた。業界別トークでは、同じ業界の異なる企業、職種、年代の同窓生たちの話を聞くことで、様々な視点から業界についての理解を深めた。学生たちは緊張しながらも、先輩たちとの交流に果敢に取り組み、積極的に質問しつつ意見を交わしていた。

フリートークの時間では、グループ

トークでは聞けなかった質問を、積極的に先輩たちに投げかけ、熱いトークの時間となった。

同窓生という人生の先輩たちと交流した学生たちからは、「まだ職種は分かりませんが、社会に出るのが楽しみになりました」、「思ってもみない発見がもりだくさんでした」、「普通は出会えない人の話を身近に聞けたことに感謝です」などの声が寄せられた。同窓生の「本音」を聞くことで、自分自身のキャリアについて、様々な角度から考える絶好の機会となったようだ。

相談会終了後、ご協力頂いた同窓生の懇親会が同じ食堂で開かれた。同窓生同士の話が弾み「本音で話げできた」と、同窓生にとっても正直に自分の思いを話せる良い機会となったようだ。

未来予想ZOO

~ICU卒業生ならではのさまざまな生き方から学ぶ

文：松本典子 (45 ID01) 写真：同窓会学生部



2019年9月21日(土)、縦察・楓寮の1階共有スペース(ウィステリアホール)において、ICU同窓会主催、ICU協賛による在学生向けのイベント「未来予想ZOO」が開催されました。「未来予想ZOO」は、就職活動とは違った切り口から、ICU卒業生の生き方・考え方の多様性を知ってもらうためのイベントで、今年で3回目の開催となります。

今回は、1年生から4年生までの学生50人、卒業生ゲスト18人、大学関係者、同窓会関係者の方々にご協力いただき、学生部スタッフを合わせて、参加者80人を超える盛会となりました。

卒業生ゲストは、歌舞伎役者、アジア・アフリカ言語文化の教授、キャリアウーマン兼タロットリーダー、書道家、映像翻訳者兼司会者、飲食店経営者など、現在の生き方も様々、現

在に至るまでの過程も様々。まさに「ZOO」というべき個性溢れる顔ぶれでした。

卒業生には、事前に「学生時代に力を入れたこと」「学生時代、悔いが残ること／うまくいかなかったなと思うこと／今の自分ならどうする?」「学生時代、やっておくと良いこと・良かったこと・現役の在学生に伝えたいメッセージ」といったアンケートに答えて頂きました。

当日は、事前アンケートの質問を軸として、卒業生と在学生の間で、さらに突っ込んだ話をしたり、ディスカッションをしました。また、参加者は、ディスカッションの中で印象に残った言葉・フレーズを各々付箋に書きとめ、ディスカッション後に参加者全員で共有しました。

付箋に書かれた言葉・フレーズには共通して、卒業生から在学生に対す

る「悩むことも含めて今しかできないことをとことんやってほしい」「ICUでの学生生活をとことん楽しんでほしい」という思いが込められていました。

また、参加した在学生からは、「カッコいい大人がたくさんいて、将来に対して明るい気持ちになれた」「食欲に、今できることを頑張ろうと思った」「どんなキャリアを選んでも頼れる方がたくさんいることも知れて安心した」「自分が将来やろうとしてい

ることに不安を抱いていたが吹っ飛んだ」「自分が今好きな事をとことん突き詰めればいいというメッセージをいただいた」といったコメントが寄せられました。

今年の「未来予想ZOO」も、ICUという同じ場で学んだ者同士でなければできない交流の場となりました。在学生にとっては、現在と未来の「生き方」を学ぶ場になったのではないかと思います。

愛情たっぷり
ICU卒業生がやっている
ガチで真の油そば屋

油そば 武蔵野アブラ学会★

FC加盟店 絶賛募集中
地方で共に油そばを広めませんか?

お問い合わせ: info@aburagaku.com

住所: 武蔵野市吉祥寺本町1-13-12
営業: 11:00~23:00 (年中無休)
電話: 0422-27-1596

吉祥寺で100人並んだ強烈店

Think globally, act locally.

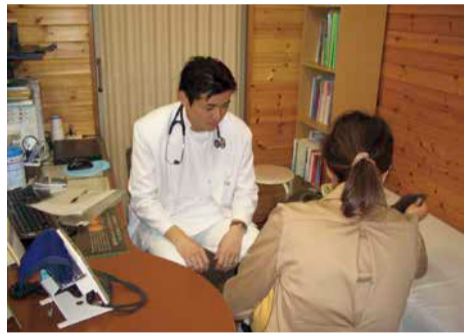
“ここ”から始まるストーリー

東京・三鷹市にあるICU。そこから数多くの卒業生たちがさまざまな場所へ旅立っていった。

ICUの「I=International」を意識せずとも胸に刻み込んで過ごした大学時代を経て、今、卒業生はどのように生きているのか。

この企画では、国内の“ある場所”で活躍する仲間にスポットを当て、その地で活動を始めた経緯やその地の魅力を聞いた。

そこから見えてくる、“地域にこだわり、地域にとらわれない”生き方とは——？



学生たちに囲まれて学んだ経験が糧となっています」

同窓生との縁も仕事につながっているという。

「自分が望む医療やケアについて前もって家族や医療従事者と話し合う『人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）』の啓発活動を行っているのですが、その一環でナラティブ・アプローチという新しい取り組みを行っています。ナラティブ・アプローチは、医療従事者が患者さんや相談相手とコミュニケーションを取りながら、その人の人生観やその人らしさに沿って生きていくことを支援する方法なのですが、その専門家がサイクリング部の後輩の奥野光さん（41 ID97）だったんです。さっそく連絡を取ってconnect8で講演を行ってもらい、現在も協力して取り組んでいます」

赤ちゃんから高齢者まで「家庭医」として診療を行う

青森県八戸市 家庭医・小倉和也氏（40 ID96）

文：安楽由紀子（本誌） 写真：本人提供

小倉和也氏が2010年に開業した「はちのへファミリークリニック」は、青森県八戸市の中心地、JR八戸駅から徒歩約10分、国道45号線そばの広々とした敷地にある。専門は「家庭医療」。患者の性別や年齢にとらわれず、内科、小児科、けがややけどの処置、骨折の診断、皮膚炎、認知症や軽度のうつ病など一般的な症状を幅広く診断、治療する。場合によっては訪問診療や在宅医療も担い、赤ちゃんから高齢者まで地域住民の健康を守る。もともとは哲学を学ぶためにICUに入学した。将来の方向性が大きく転換したのは、1年時に参加した海外英語研修（SEA）プログラム。カナダのヴィクトリア大学で学びながら老人ホームでボランティア活動を行い、現地の医学部の学生と親しくなった。「体も心も病気になった身内がいるが、どこを受診すればよいのだろうか」と相談したところ、「家庭医に相談すればいい」と言われ、当時日本ではほとんど浸透していなかった家庭医の存在を知った。

家庭医は単に病気を診て専門医に振り分けを行うのではなく、患者に対して環境や精神面も含めて総合的に関わり、自分が診るべき症状は診療し、必要な場合はふさわしい専門医を紹介、その後のフォローも行う。患者との信頼関係はもちろん、地域医療との協力関係も築いていく必要がある。

「父は八戸で産婦人科を営んでいま

したが、僕自身は医師になるつもりはまったくなかったんです。しかし、家庭医という概念に心を動かされました。家庭医療は地域密着型、地域に根ざすことが大切。いずれ故郷に帰り、人や地域全体を診る家庭医になろうと決意しました」

医療機関の連携事業も行う

ICUを卒業した後、沖縄県の琉球大学医学部に入学。卒業後、北海道家庭医療学センターで日本初となる家庭医のための研修を受けた。今となってはこの研修プログラムは家庭医育成プログラムの基礎になっているが、当時研修を受けた医師は20人ほどしかいなかったという。その後、家庭医を育成する滋賀県の弓削メディカルクリニックで経験を積み、道を切り開いてきた。

東京、沖縄、北海道、滋賀を経て、故郷でクリニックを開業して5年後の2015年、小倉氏は高齢者の在宅診療における地域連携事業「connect8（コネクトエイト）」を立ち上げた。connect8は、八戸市内の病院や診療所、訪問看護ステーション、居宅介護事業所、入所施設、薬局や歯科を連携し、同意を得た患者・利用者の情報にインターネットでアクセスできるしくみ。八戸市はドクターヘリやドクターカーを備えた救急医療体制が整っており、人口当たりの訪問介護ステーション数も全国平均より多いが、各医療機

関の連携は不足していると当時の小倉氏は感じたという。

connect8は地域の医療関係者、住民から支持され、2016年には厚生労働省の委託調査で全国10の先進事例として紹介されたほか、2018年には医療介護ICT連携の標準化のための総務省の実証事業のフィールドに選定された。現在、登録事業所数221、スタッフは1022人、登録患者数は延べ約1900人に上る（2019年10月現在）。

また、2017年には、子どもや障害者、子育て世代など全世代が助け合って生活する地域共生社会の確立に向けた活動を行うNPO法人Reconnect（リコネクト）を設立。さらに、こうした取り組みを全国に広げるNPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク副会長も務めている。

リベラルアーツが現場で役立つ

ICU在学1年時にはすでに医師になる気持ちを固めていた小倉氏だが、ICUで学んだことは決して無駄ではなかったと語る。「家庭医は病気を診るだけではなく、患者さんの人生観、価値観を尊重しながら治療していかなければならない。そこで必要なコミュニケーション能力、判断力は、家庭医療の研修でも学びましたが、基礎となっているのはICUのリベラルアーツだと思います。クリニックだけでなく医療機関連携の活動も、ICUで多様性豊かな

どのような医療を望むか

“もしも”のときどのような医療を望むか。人生会議は少子高齢化社会が進むなか、重要なテーマとなっている。望まない延命処置は本人や家族にとっても負担となるほか、医療機関においても本来救急で治療が必要な患者の受け入れができなくなるなどの問題を引き起こす場合がある。小倉氏は介護施設の職員を対象にした看取りの手引きを作成し、研修会を開催している。

2018年、父を在宅で看取った。自宅で最期を——それは本人の希望だった。

医師にはなるまいとICUに入学したことで図らずも父と同じ道を歩むことになった小倉氏。すべての経験を胸に、今日も八戸の医療を支えている。

「八戸」のいいところ

● 食べ物

なんといっても八戸港で水揚げされたイカ、サバ。とても美味しいですよ。郷土料理のせんべい汁もおすすめ。

お邪魔します! あのメジャー

全31の中から気になるメジャーを紹介

今回は、学際メジャーの中から平和研究を取り上げます。
ICU設立における根幹となる要素である「平和」に関する研究領域。
今回は平和教育・平和心理学という観点から笹尾敏明教授にお話を伺いました。
文・写真: 谷澤聡 (本誌)

ICUで平和研究を学ぶ意義 KnowledgeではなくWisdom

まず、ICUが平和構築という点で強い使命をもって建てられた大学であるということを理解してもらいたいです。単にリサーチスキルや知識(Knowledge)ではなく、どのような人生の知恵(Wisdom)を養えるか、それが平和研究をする上での意義ではないかと考えています。例えば単に原爆の歴史や悲惨さを知っているだけでなく、どうやって歴史的事実を将来の平和構築につなげていくか。もし自分が将来「平和」に関わる仕事に携わったとしたら、あるいは、大学院や他の職種でもどのように「平和」を捉え、それがいろいろな人生の課題に対しての判断や決断にどのような影響を与えるだろうか。そうしたことを学ぶ土台を作ることがICUにおける平和研究の意義の一つだと思っています。

また、リベラルアーツと聞けば、クリティカルシンキング等の資質が挙げられがちですが、例えば沖縄の辺野古への基地移設問題、中東和平の課題、日韓の関係緩和等、平和に関する課題においては、批判的に見るよりも自身の価値観やスタンスを明らかにして、どうすれば説得力のある建設的な議論を持って説明して行動に移せるか指導することが重要ではないかと思えます。

平和研究の現状と課題

現在、平和研究の担当教員は14人ほどですが、広義に定義すると、平和研究に関心や実践・研究に関わっている教員は、実際にはおよそ30人です。複数の分野が交わり、非常に広い分野であることは、平和研究の強みです。つまり、ICUにはキリスト教の信仰に基づき、「平和と正義」を求めて、自分の研究や教鞭に力を注いでいる教員が多くいます。

学際的な視点からの学びは大事で、学生も教員も多様性に満ちた環境で学べる、そして学べることは、平和研究を専攻することにあたって、また将来的にとっても重要です。また、その多様性が学びに関してチャレンジを与えているとも思います。というのも、そうした環境の中で学ぶ際、学生は授業にかえって消極的になったり、色々な考え方に触れることで混乱するかもしれませんが、主体的に考えていくことが求められます。一方、アカデミックな

ものには、研究に関して方法論を学び、それを基盤にして研究を進めるのが必要です。ICUには平和研究だけを担当する先生はおらず、様々な先生方が関わっているため、理論や方法について触れることができます。

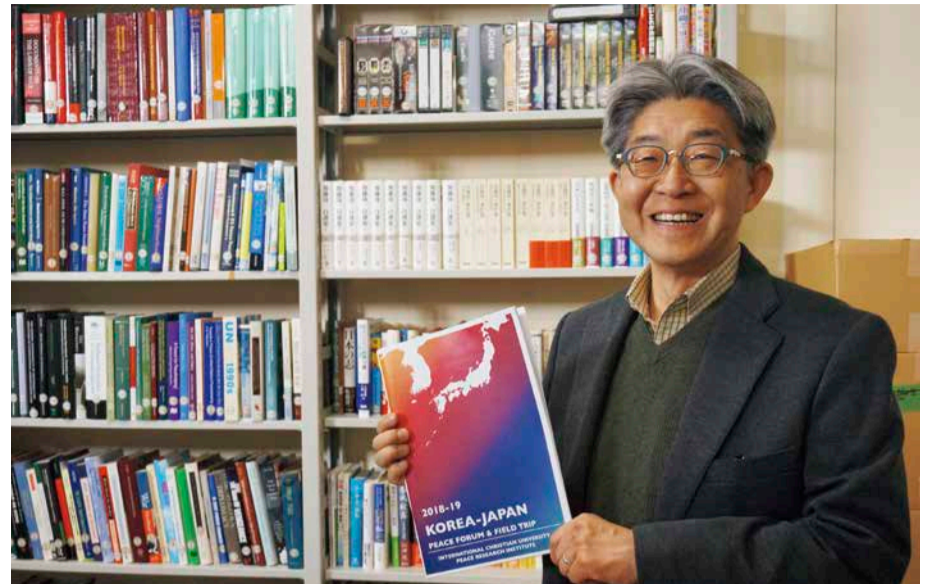
平和研究を進める大学は国内外でも決して多くなく、ICUの平和研究はユニークかもしれません。しかし、平和研究の学際メジャーはICUが設立された大きな柱の一つであるということからも、今後とも大事にしていきたいという思いがあります。学生の皆さんにも、平和研究の意義を理解して、国内外の色々な平和の課題に取り組んでいてもらいたいと思っています。

平和研究所主催によるフィールド トリップ・プログラムと学生たちの成長

1991年以来、平和研究所では毎年、授業外の平和研究プログラムとして学生を国内や海外フィールド・トリップを実施しております。以前はリトアニア、アウシュビッツ、南米、広島、沖縄などを訪れていました。最近では、日韓関係の外交、歴史等に関する興味が高まり、日本がVictim(犠牲者)としてだけでなく、Perpetrator(加害者)としての日本をも理解してもらいたい、という思いもあり学生たちを韓国へ連れて行き、歴史的背景を追いながら、韓国の大学(例:ソウル国立大学、梨花女子大学、韓南大学、韓東グローバル大学)で討論や交流を行なっています。より多くのICU生に奮って参加して頂きたいです。

ICUの通常授業と違う点は、フィールドトリップの後にはリサーチペーパー(論文)を書いてもらい、発表の場を提供するところです。単なる感想文やレポートではなく、出発前にグループでプレゼンを行い、プロジェクトとしてトリップの前後に研究してもらう。そしてフィールドトリップ後に英語で論文を出してもらっています。プログラムに参加する学生の幅は広く、1年生から大学院生まで混ざったグループで学んでもらっています。

ICU生は問題意識が高く、よく学びます。過去の経験では優秀なICU生の参加者が多く、分析能力も高いと自負しています。韓国の学生との対話も共通言語として英語を使うということで、ICU生は参加者の中でも特に英語でのコミュニケーション能力が高かったです。



SASAO, Toshiaki

1988年、南カリフォルニア大学大学院心理学科博士課程終了・学位取得(Ph.D. 社会心理学)。1997年、ICU教養学部 旧教育学科に赴任。現在、ICU平和研究所長、教育学・言語教育学ディパートメント長。本学赴任以前はUCLA助教授、2000年以降、イリノイ大学シカゴ校、東京大学大学院、中央大学大学院、米国・サウスカロライナ大学、韓国・延世大学大学院、ポーランド・オポーレ大学心理学部、法政大学国際教養学部、筑波大学大学院にて教鞭をとる。専門分野は、社会・コミュニティ心理学、平和心理学、平和教育で、主な研究テーマは、マイノリティや社会的疎外者のウェルビーイングに対する社会的、社会生態学的アプローチからの介入、平和教育プログラムの韓日共同構築と評価など。

このトリップを通じて、ICU生たちが短期間でやる気が急に向上し、顔色ががらっと変わり、変化がわかったという点が嬉しかったことを覚えています。学生たちの取り組み方において、目に見える変化が見られ、自信もつく。外国の違う言語の中で学ぶ中で、自分の見方も変わってきます。

トリップ当初は、「やっぱり自分たちはだめなんだろうか」という弱音をはく学生もいましたが、この1週間という短期間で自信がついたと実感しています。フィールドトリップの目的が全うされたかなと思いました。

私自身も、初めて海外へ行ったのが大学2年時、韓国への研修トリップでした。もう40年以上も前のことです。その時も、英語を通して交流をし、通じた喜びを感じたのは今でも非常に印象に残っています。その海外での体験がきっかけとなり、次の年には日本を出ることに決めましたし、19歳でアメリカに行くことに繋がりました。このフィールドプログラムを通じて、学生達に影響を与えることができれば良いと思っています。

今後の展望

教員としては、学生にはより学びを進めて欲しいという気持ちはありますが、たとえ卒業後にどのような分野へ進んだとしても、「平和の視点」は身に付けてほしいと思っています。つまり、それは単なる平和の定義や諸問題の事実やニュースだけではなく、平和研究をメジャーにする学生が人数の多い少ないではなく、学生の皆さんの自分の人生における重要な視点となり、また、大学の重要なビジョンとしての

認識がさらに深まってほしいという願いもあります。

ICU生は、周りからの期待もあるのか、どうしても意識が海外に向きがちですが、国内においても様々な平和の課題や問題に意識を向けてもいいかなと考えています。国内の身近にある問題、たとえば日本の学校におけるいじめの問題、人権の課題、ジェンダーの課題などにも、平和の視点を持ちつつ積極的に関わってもらえたらと思います。また、平和教育は、SDGsの視点からも、重要な目標として掲げられています。

平和研究のデータ

●開講されている主なクラス(2019年度現在)

平和研究Ⅰ
平和研究Ⅱ
平和と人権
平和と対集団関係論
開発と教育
平和教育の理論と実践
国際政治学
平和思想 など

●担当教員(2020年1月現在)

オルバーグ, ジェレマイア L.
新垣 修
千葉 眞
木部 尚志
森本 あんり
西村 幹子
サルトン, ヘルマン
笹尾 敏明
シャーニー, ジョージアンドレア
サイモンズ, クリストファー E. J.
徐 載晶
高松 香奈
フォッセ, ヴィルヘルム M.
矢嶋 直規

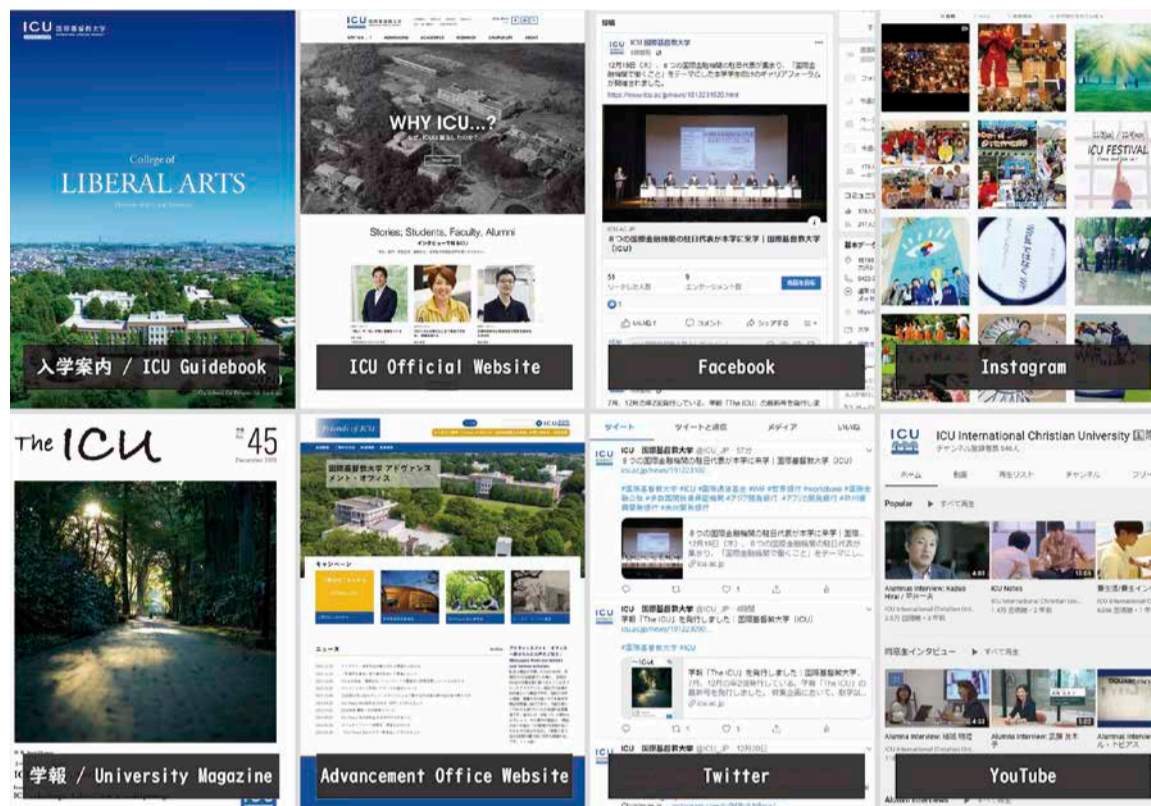
From the University

大学のページ

過去5回にわたり連載をしてきた大学事務部署紹介ですが、今回6回目が最後となります。

最後は、広報および募金を担当している当部署、パブリックリレーションズ・オフィスとアドヴァンスメント・オフィスの紹介です。次号からは、新しい企画を当ページに連載予定です。これまでお読みいただき、誠にありがとうございました。

文：パブリックリレーションズ・オフィス／アドヴァンスメント・オフィス



We've been running a series of articles to introduce university offices in the past five issues. This sixth article will be the last one, featuring ourselves. We are the Public Relations Office and Advancement Office in charge of public relations and fund raising, respectively. Starting from the next issue, we will launch a new series on this page. Thank you, readers for having read this series, and please look forward to the new one!

TEXT: Public Relations Office and Advancement Office

パブリックリレーションズ・オフィス ／アドヴァンスメント・オフィス

はじめに

パブリックリレーションズ・オフィスとアドヴァンスメント・オフィスは、2016年10月から、アラムナイハウス1階で共に業務に取り組んできました。そして、2019年4月から、これまでアドミッションズ・センターが担当していた受験生向けの広報に関する業務を取り込み、受験生、在学生、在学生の保証人、メディア、そして同窓生の皆様など、ICUの広報活動を一体となって行う組織に変更されました。現在の体制は、合計14人（非常勤スタッフを含む）の組織で、広報活動とともに募金活動も行う部署として、日々の業務に取り組んでいます。

パブリックリレーションズ・オフィスの業務

グローバル化やテクノロジーの急速な発展をはじめとする社会の激動に対応する力として、文理、分野の垣根を超えて知を結合させる必要性が、文部科学省や経団連でも議論されている中、国内の大学でも文理融合型の学部・学科の新設、リベラルアーツ教育を掲げる大学が増加しています。

このような状況の中、パブリックリレーションズ・オフィスでは、献学以

来、ICUが徹底している学修者本位のリベラルアーツ教育が、他大学とどう違うのかを伝えることに注力し、受験生、受験生の保証人、高校教員、在学生、在学生の保証人、メディアなどへさまざまな広報ツールを活用した広報を行っています。具体的には、入学案内や学報「The ICU」を始めとする各種広報冊子の作成、三鷹キャンパスおよび地方での受験生対象のオープンキャンパスの開催、国内外で行われる進学相談会への参加や高校への訪問、また、高大接続*推進のため高校生のための新規プログラム開発にも取り組んでいます。さらに、在学生の保証人の方を対象としたオープンキャンパスの開催、大学オフィシャルWebサイトやInstagram、YouTube、Twitter、Facebookの運営、メディアからの取材対応などを主な業務としています。

これらの業務の中で、同窓生の皆様向けとしては、学報「The ICU」の制作がありますが、当記事が掲載されている「Alumni News」とよく混同されます。学報「The ICU」は大学が主に同窓生の皆様に対象に制作している冊子で7月と12月に発行、「Alumni News」は同窓会の皆さまが主体で制作している冊子になりますので、今後制作主体が異なることを意識しつつご

Find out about the Public Relations Office and Advancement Office

Introduction

The Public Relations Office and Advancement Office have together been functioning on the first floor of the Alumni House since October 2016. Since April 2019, the two offices have taken over part of the publicity operations of the Admissions Center targeted at prospective students, and have thus transformed into an organization responsible for ICU's PR operations for all ICU stakeholders from prospective students, current ICU students, guarantors of current students, the media and you, the alumni. Currently we are a team of 14 staff members (including part-time staff), operating as a department in charge of ICU's public relations and fund-raising activities.

Roles of the Public Relations Office

As the need to integrate knowledge across disciplines and even across the humanities and natural sciences is being emphasized by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and Keidanren Japan Business Federation and other leaders of Japan as a means to foster the ability to respond to turbulent changes in society including globalization and rapid development of technologies, a growing number of Japanese universities are offering liberal arts education and newly establishing interdisciplinary schools and departments. Amidst this situation, the Public Rela-

tions Office focuses on communicating the distinct characteristics of our student-centered liberal arts education that ICU has devotedly pursued since its foundation, to prospective students and their guarantors, high school teachers, current ICU students, guarantors of current students, and the media through a variety of publicity tools. Specifically speaking, we publish ICU guidebooks, The ICU, and various other brochures; hold Open Campus events on Mitaka Campus and also in other areas of Japan; participate in joint guidance sessions in Japan and abroad; visit high schools; and develop new programs for high school students as part of the High School/University Articulation Reforms*. Other activities include organizing open campus event for guarantors of current students, operation of ICU's official website and Instagram, YouTube, Twitter and Facebook accounts, and responding to inquiries from the media.

*High School/University Articulation Reform: An integrated reform of high school education, university education, and the process of selecting university entrants.

Among these activities, perhaps publication of The ICU may be the most familiar for the alumni. Some people confuse The ICU with the Alumni News, the latter of which you are reading right now. Please note that The ICU is a PR magazine published by ICU twice a year in July and December and targeted mainly at the alumni, while this Alumni News

一読いただけると幸いです。

*高大接続：高校の教育、大学入試、大学の教育を三者一体となって改革する取り組み

アドヴァンスメント・オフィスの業務

「アドヴァンスメント・オフィスって何の部署ですか?」。こういった質問を受けることがあります。私たちはAdvancementを大学の目標に向け前進させるものだと捉え、主に同窓生の皆様とのリレーション強化に向けた取り組みやご寄付の窓口をしています。「同窓会事務局と同じ組織?」と、よく間違われますが、別組織です。もちろん、さまざまな面で緊密に協働をさせていただいています。他部署では日々の業務で接する方が学生の皆さんや先生方であることが多いですが、当オフィスではそれが同窓生を中心としたご寄付者の方々ですので、ICUの大先輩から貴重なお話を伺える、ICUの歴史に詳しくなる、寄付に詳しくなるという特典があります。具体的には学校法人の寄付金の募集・受入・払い出しに関する事、またご寄付対象者としての保証人や同窓生、その他ご寄付者のデータ管理などの業務を実施しています。「寄付」を自分とは関係ないものと思っている方も多いと思いますが、ご寄付無しには今のICUはありません。ご寄付が原資になった奨学金を受けた、自然災害によって被災した時に支援を受けたという方もいらっしゃると思いますし、近年ではマクリール通りの桜並木も大きな反響があった「桜募金」によって再生の途上です。

同窓生の皆様とのコミュニケーション強化に向けて

昨年の4月に受験生向けの広報に関する業務が加わり約8か月(記事執筆時点)が経過し、受験生、在学生保証人、同窓生、ご寄付者、メディアの方々にとっての、ICUの窓口として一体化されたオフィスの形を少しずつではありますが、築き始めています。今後は、さらに大学として統一されたメッセージを適切なタイミングで適切な方法で発信して参ります。来年度に向けては、同窓生の皆様向けに発行・執筆している媒体である学報「The ICU」とAlumni Newsの当ページについて、今後どのような形で皆様とコミュニケーションを図っていくのが最適なのか現在検討している段階です。また、ご寄付のWebサイトである、アドヴァンスメント・オフィスのWebサイトを、より使いやすいサイトへの改善も現在進めております。

ICUの魅力の一つは、前述の学修者本位のリベラルアーツ教育であることに変わりはありませんが、それと同じく本学の教育を受けた同窓生の皆様のご活躍も大変に大きな魅力です。今年4月からは、岩切正一郎新学長を迎え、先に就任した竹内弘高理事長ともに新体制での大学運営となる中、同窓生の皆様とはこれまで以上にコミュニケーションを強化していく所存ですので、引き続き本学にご関心をお寄せくださいますようお願い致します。

また、私たちはこれからも必要な人、必要なことに適切にご寄付を募り、大切に使うことでICUを支えてくださる一人ずつの思いに応えていきたいと考えています。ご寄付についてご不明の点がございましたらいつでもお問合せください。

is published by the Alumni Association. It might be helpful for you to be aware of the difference in the publishing bodies (the university and the Alumni Association) when you read these two publications.

Roles of the Advancement Office

“What does the Advancement Office do?” – we are often asked this question. We think the name Advancement indicates that our purpose is to “help advance ICU toward its goals.” We work on initiatives to enhance relations with the alumni and serve as a window to accept donations. We are often confused with the Secretariat of the Alumni Association, but we are a separate organization from the Alumni Association, although we do closely cooperate with them on many aspects. Other university offices interact with the students and faculty members in their daily work, but we interact with the donors, who are mostly the alumni, and therefore we are blessed with the opportunity to listen to senior alumni members and learn about ICU's history and about donations in general. Our specific activities include soliciting, collecting and disbursing donations to ICU, and to maintain information on student guarantors, alumni and other donors. Many people may think the act of donation as something unfamiliar and irrelevant to themselves, but ICU cannot exist without donations. Many students were able to study at ICU thanks to scholarships supported by donations and many others have received financial support when they were affected by natural disasters. To give a recent example, the cherry trees that line MacLean Avenue are being replanted by the ICU Sakura Fund which attracted many donations.

Towards Enhancing Communication with the Alumni

Eight months have passed (at the time of this writing) since we took over publicity activities targeted at prospective students this April and we are gradually taking shape into an integrated office as a window for all ICU stakeholders from prospective students, guarantors of current students, alumni, donors and the media. We will work to send out consistent messages in a timely and appropriate manner. In preparing for next year, we are now considering what would be the best ways to communicate to the alumni members through The ICU and Alumni News (this page), the two existing channels we have for communication with alumni. We're also preparing for the renewal of the Advancement Office website, a site for prospective donors, so that it will become more user friendly.

One of the most attractive features of ICU is, as mentioned earlier, our student-centered liberal arts education, but no less attractive is the alumni who are playing active roles all over the world after having been educated in ICU. Professor Shoichiro Iwakiri will be appointed as the ICU President next April, and together with Dr. Hirota Takeuchi who has been appointed Chair of the ICU Board of Trustees earlier, take leadership of the university administration. At this time of change, we hope to further strengthen communication with alumni members, so please stay tuned and follow new developments at ICU.

We will also continue to solicit donations and carefully use them for people and matters that are really in need. We believe that is the best way we can express our appreciation to everyone who supports ICU. Please feel free to contact us if there is anything you are unsure about donations.

パブリックリレーションズ・オフィス / アドヴァンスメント・オフィスの概要

場所：アラムナイハウス1階 / 人数：14人(非常勤スタッフ含む)

Public Relations Office / Advancement Office

Location: 1st floor, Alumni House
Staff: 14 (including part-time staff)

2020年度 学長主催「入学25周年・50周年記念祝賀会」開催のお知らせ

Coming up: 25th and 50th Matriculation Anniversary Celebrations, 2020, hosted by the President.

入学より25年、50年を迎える同窓生を対象とする学長主催「入学25周年・50周年記念祝賀会」が2020年度も開催されます。2020年度は43期(1995年入学)、18期(1970年入学)の同窓生が対象です。当日は、礼拝堂で記念礼拝を執り行った後、大学食堂で懇親会が開催されます。対象となる同窓生の皆様には、本学学報「The ICU」をお送りしているご住所宛に招待状をお送りしました。大学および同窓会が連絡先を承知していないために、学報が届いていないご友人が周りにいらっしゃいましたら、ぜひ本学ウェブサイトより住所変更申請を行っていただきますようお願いいたします。

The Celebration for the 25th and 50th Anniversaries of Matriculation hosted by the President will be held for alumni who are welcoming their 25th or 50th matriculation anniversary in 2020. Alumni who matriculated in 1970 or 1995 will be invited. On the day of the celebration, a commemorative service will be held at University Chapel. Afterward, a reception will be held at University Dining Hall. Invitations was sent to the address to which “The ICU” is sent. If you know any alumni who are not receiving “The ICU,” please ask them to report their current address from the webpage below.

住所変更の申請 “Change of Address” form:

<https://business.form-mailer.jp/fms/5f6a508547484>

開催日：2020年4月18日(土) Day: April 18, 2020 (Sat.)

対象者：入学25周年…43期(1995年入学)、入学50周年…18期(1970年入学)

Invitees: 50 years since Matriculation: 18th Class (those who matriculated in 1970)
25 years since Matriculation: 43rd Class (those who matriculated in 1995)



From the Alumni House

アラムナイハウスから

ID99卒後20周年同窓会報告

文：大西菜穂子 (43 ID99)



桜の残る美しい4月に卒後20周年を記念してID99とそこご家族が学食に集合しました。4年前にも入学20周年で集まっていたのですが、歳月の早さに驚きつつ変わらぬみんなの笑顔(と、あふれ出る個性)にほっとしました。

当日は「インスタ映え…しない、開発援助の話」と題し、一般財団法人宗像協会理事長として国内外の女子教育、ダイバーシティ、貧困削減に取り組んでいらっしゃる田中真奈氏に、高橋美穂子氏・設楽友崇氏から「タイトルの意味ってなーに??」を突っ込んでもらう企画を実施。さらに、幹事でもある小野裕史氏、理恵子氏(旧姓高木)ご夫妻、ご夫妻の次男も所属する「高円寺阿波踊り連協会所属 和楽連」の皆さんによるパフォーマンス&参加者全員での阿波踊り体験も行われました。

ゆるアカデミックな雰囲気から、迫力ある伝統芸能まで詰め込んだ会は大盛り上がりを見せ、やはりICU出身者が集まるだけで面白いな〜と実感いたしました。多くの方々のご協力を得て無事終了し、最後に会計の一部を新体育施設支援募金へ寄付、「ID99卒後20周年同窓会参加者一同」と記録して頂けるようお願いしました。来年は、学長主催の入学25周年記念祝賀会も予定されるとのことなので、また楽しい時間を過ごしたいと考えています。

PBS支部 卒業生・在学生懇親会報告

文：藤岡直樹 (59 ID15)



昨年に続き2回目となる、PBS (Peace Bell Scholar) の卒業生・在学生が集う懇親会を、9月7日(土)夜に新宿にて開催致しました。当日は、ID15 / 59期からID22 / 66期までのPBS卒業生・在学生に加え、日頃よりPBS支部の活動をご支援頂いている同窓会の方々にも参加頂き、総勢12人が集まりました。学年・世代の垣根を越えて、学生生活や卒業後の進路などの話を花を咲かせ、1次会・2次会共に大いに盛り上がりました。横の繋がりはもちろんのこと、普段はなかなか接することの無い異なる学年・世代同士(縦)の繋がりを広げることができ、有意義な時間となりました。

PBS支部は、PBSとそのドナー、同窓会との持続的な交流の機会を設け、PBSの認知を図るとともにその継続に繋がる活動をしていくことを目的に、2017年7月に設立されました。ドナーの方々より託された想いを次世代へと伝えるべく、今後もPBS同士の繋がりを深めるイベントなどを通じて支部の活動を更に活発化していきたいと思っています。

Washington DC支部会報告

文：清水素子 (32 ID88)



On October 20, 2019, ICU and Jyochi (Sophia) Universities' joint reunion party was held at ICU alumna, Ms. Stephanie Benfield's condominium. This was the second joint reunion since 2016. The ICU DC Alumni Chapter's blue flag had inspired the Sophia Alumni Chapter. This year Sophia Alumni received the flag, so we celebrated together.

Our chapter member, Dr. Toshiyuki Yasui, played the shakuhachi, and a Sophia alumna, Mr. Howard Stone, shared his experiences as a Mansfield scholar in Japan, which led to a lively discussion. A Halloween costume contest for kids was held, and it was truly a fun-filled party.

サッカー部OBOG会 総会開催報告

文：岸原豊明 (29 ID85)



8月31日(土)にアラムナイラウンジにて、サッカー部OBOG会総会(=同窓会サッカー部支部会)が開催されました。当日は、太田信之氏(33 ID89)から前年度の活動報告及び新年度の活動計画について説明があ

り、次に夏合宿から帰ったばかりの現役伊藤キャプテンから秋のリーグ戦に向けた活動報告がありました。そして最後に特別企画として、我がサッカー部OBで、本年6月からICU理事長に就任された竹内弘高先生(13)に「全てはICUから始まった」というタイトルの講演をして頂きました。

総会終了後は、場所を吉祥寺に移しての懇親会。1963年のサッカー部創設当時のメンバーから、年齢的にはその孫世代の現役選手・マネージャーまで、ICUらしく歳の差を全く感じない和気あいあいとした雰囲気、親睦を深めました。OBOGにとっても現役にとっても、相互理解と交流を深めることができ、とても貴重な機会となりました。

テニス部リユニオン報告

文：尾崎正明 (22 ID78)



11月17日は素晴らしい秋晴れで、120人を超えるテニス部OBOG、現役メンバー、小瀬博之先生、高橋伸先生、同窓会櫻井淳二会長(28 ID84)にもご参加いただき、素晴らしい会を開催することができました。

昨年11月以降の皆さまからの寄付より、現役に本年は30万円を寄付することも出来ました。テニスコートはテニス部の管理ですが、2年に一度の掘り起こしに160万円以上かかり、その費用の一部として使っていただくことができます。

今回は若手OBOGも多く参加し、

TRANSLATION 契約書・法務文書翻訳のエキスパート—EXIM

みなさまの国際業務を側面からサポートさせていただきます。

創業32年

- 自分で翻訳する時間がなくてお困りのとき
- 量が多くて対応に苦慮されているとき
- 正確で読みやすい翻訳が必要なおとき

EXIMがお約束する“3S”

- Superior quality (ご満足いただける品質)
- Swift delivery (ご希望の納期を尊重)
- Suitable price (リーズナブルな料金)

※法律以外の分野の翻訳、通訳なども承ります。

お気軽にご相談ください。



♥ICU同窓生10%割引

日本外国特派員協会会員 / 東京商工会議所会員

(株)エクシム・インターナショナル

EXIM INTERNATIONAL, INC.

永島 克彦 (14期) 比奈地 康晴 (14期)

TEL 03-3431-2118

URL: <http://www.exim-int.com/>

東京

〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 セネラルビル3F
TEL 03-3431-2118 FAX 03-3431-2120 E-mail: tokyo@exim-int.com

横浜

〒232-0063 横浜市中区中里2-14-5
TEL 045-721-4800 FAX 045-721-5165 E-mail: yokohama@exim-int.com

私たちがコーディネーションします!

We are here to save you time and money!



会社の創立から32年。コーディネーターの私たちがも歳をとりましたが、元気に頑張っています。

年齢を超えたテニスコートでの共通の思い出を持つ者同士の絆を深めあうことができました。

2020年は11月15日の日曜日に開催する予定です。

ボストン支部会報告

文：松村 (Bol) 佐登美 (13)



今回のボストン支部同窓会は、11月9日(土) 今秋一番の冷え込みの中、ボストン市内の居酒屋「いただき」で行われました。秋は色々な行事があるためか出席人数は今ひとつ(14人)でしたが、個室で和気藹々と美味しい和食をいただきつつ楽しく談笑いたしました。年齢も専門も様々で、学部ごとの専攻とその後のキャリアが必ずしも同じでなく、ICUのliberal artsの強さを垣間見た思いです。

今回は支部会長の竹内弘高教授(13)、アマーフト大学で長く日本語教育に携わる多和わ子教授(G1973)の二人に講演をお願いしました。他にも弁護士、医学面、教育と、皆さんそれぞれ活躍していますが、今回特筆すべきはボストン支部会長の竹内弘高氏が卒業生として初めてICUの新理事長に就任したことでしょう。様々なビジョンを是非実現して欲しいです。また支部長の宮川繁氏(19)は長年MITで教鞭を執っていましたが、現在はMITの教授としてhalf-time、またSenior Associate Deanをしています。

第1回基督教伝道献身者の会支部会報告

文：有馬平吉 (18)



10月14日にシーベリーチャペルで開催されました。讃美歌225番を高らかに歌い、開会の祈祷。当日の参加者(28人)の紹介、『ICU創成の歴史を訪ねて』というスライドショーで開校当時の貴重な写真を富岡徹郎氏(26 ID82)が解説をしてくださしました。その後3人の方々に「ショートスピーチ」をしていただきました。

ICUは神学校ではないにもかかわらず、戦後日本のキリスト教界に多大な貢献をしてきている多くの卒業生を輩出している稀有な大学です。その卒業生たちの(故人も含め)働きを紹介するような冊子を作成してはどうかという提案がなされ、今後の課題とされました。「記念写真撮影」「ICUソング」「祈祷」をもって、第一回「お茶と懇談会」は無事終了しました。

徳島支部会報告

文：木村静香 (29 ID85)



9月1日、同窓生で友人の銀林(BARBOTTE)成江氏(28 ID84)のピアノコンサートを徳島花杏豆で開催する運びとなり、そこで徳島支部の同窓会を行いました。

徳島支部から4人、香川支部から支部長の濱崎直哉氏(37 ID93)が駆けつけて下さり、ピアニストの銀林成江氏も含めると計6人という小さな同窓会でした。コンサートの後に記念写真を撮りました。少人数ゆえ、いつも開催が危ぶまれる徳島支部会ですが、良い形で支部会を開くことができました。

20人ほど住所を把握していますが、もっと集まっていたら知恵を絞りたいです。

南カリフォルニア支部留学生歓迎会報告

文：井上由紀 (37 ID93)



今年もまた、ICUから南カリフォルニア地域へ元気の留学生たちがやってきました。少し暑さが和らいで絶好のピクニック日和のこの日、恒例の留学生歓迎会がドジャーススタジアム近くのエリシアン・パークで開かれました。今回も、1期生から最近までの同窓生とご家族・友人、たくさんの留学生、合わせて30人以上が集まり、ケータリングのメキシカンランチに舌鼓を打ちながら、自己紹介やあちらこちらでの立ち話、ハイキングと楽しく過ごしました。

Facebookのほうもよろしかったら覗いてみてください。https://www.facebook.com/groups/icusocal/(プライベートグループですのでリクエストをお送りください。)同窓生で南カリフォルニアに在住の方はもちろん、出張に来られた方、ICU高校卒業生、大学院卒業生、9月生、OYR、もちろん現役生も歓迎しております。

お問い合わせは、southerncalifornia-chapter@icualumni.com まで。

2020年ICU教育セミナーの申込についての変更点のお知らせ

文：ICU教育セミナー世話人会
三橋洋二 (21 ID77)

第43回ICU教育セミナーは、2020年8月4日(火)・5日(水)に開催します。

開催準備にあたり重要な変更点についてお知らせ致します。

①郵送での連絡・申込みを取りやめ、ご案内はメールによる一斉送信で行います。12～1月の「研究発表・実践報告の募集と応募」から、世話会が管理する事務局メールアドレス：icu.ed.semi@gmail.comで連絡・申込みの受付をします。

②2020年に限り、宿泊の予約は各自でお願い致します。ホテルメッツ武蔵境は、7月中旬～8/9(日)の予約を「メッツHPで宿泊客本人が予約・宿泊料金前納振込(キャンセル料100%)」のオリンピック特別予約と設定しました。ホテルメッツ宿泊を希望する方は、メッツのHPにアクセスし予約と前納を行ってください。

44期の同期会のご案内

「ID00・・・?!」と先輩方に驚かれながら、入学と同時にミレニアムの風を吹き込んだのも遠い昔となりました。そんな私たちが卒業20周年を迎えるにあたり、満を持してID00同窓会を開催したいと思います。ご予約のほどよろしくお願い致します。※詳細は同封のピンクの用紙をご覧ください。

【日時】2020年5月24日(日)12時30分～15時(受付12時開始)

【場所】ICU大学食堂

また、現在繋がりのあるID00同窓のお仲間がいらっしゃいましたら、同窓会名簿への最新情報登録／Facebook「ICU00」グループ(https://www.facebook.com/groups/ICU00/)へのご案内をお願いできますでしょうか。当日は多くの皆さまと再会し楽しい時間を過ごせることを、心より楽しみにしております!※2021年には学長主催ICU入学25周年記念祝賀会も予定されているそうです。そちらもお楽しみにお待ちください。

幹事：朝倉(杉本)志津・請盛敏寿・佐々木(鈴木)祐子・信太隆・佃隆・山崎丁巳生

「教育」という財産を、お孫さまに贈りませんか。

教育資金贈与信託〈愛称:孫への想い〉



「教育資金贈与信託(愛称:孫への想い)」は、30歳未満のお孫さま等への教育資金として当社へお預け入れいただき、当社がお孫さま等からの払出請求に基づき、教育資金をお支払いする商品です。

- 5,000円からお申し込みいただけます。
- 贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。

お申し込みは2021年3月24日まで

特長1

教育資金としてしっかり管理

贈与した資金は用途が教育資金に限定されるので安心です。

特長2

1,500万円まで非課税で贈与

【対象例】



学校等

そのうち学校等以外へのお支払いは500万円まで



学習塾・そろばん

水泳・野球

ピアノ・絵画等

特長3

無料!

管理料

払出手数料

お問い合わせ・資料のご請求は

0120-988-494

受付時間

平日9:00～17:00(土・日・祝日および12/31～1/3はご利用いただけません)

孫への想い

検索

お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

その人を信じて、その人に託す。Meet The Trust Bank



三井住友信託銀行

寄付者御芳名 Donors

北城格太郎前理事長
齋藤顕一 (17)
樺島榮一郎 (37 ID93)
ファミリーカイロプラクティック三鷹院
貴重なご寄付を誠にありがとうございます。

たずね人 Missing

池田英人 (35 ID91)
深見淳 (43 ID99)
田中智己 (49 ID05)
金ボラム (55 ID11)
市村脩一郎 (57 ID13)
小山櫻子 (57 ID13)
GUERRERO MAURICIO Jose Carlos
(60 ID16)
野邊大樹 (61 ID17)
ご存知の方は事務局までご一報下さい。

訃報 Obituary

松尾恵子特別会員
宮川正俊特別会員
美濃一朗 (1)
Winn(富田)朝子 (1)
堀口(入江)香代子 (3)
阿部哲夫 (4)
藤原進 (4)
若木(大日方)千賀子 (5)
篠田(中川)雅人 (5)
徳永浩 (6)
野崎稲穂 (7)
心よりお悔やみ申し上げます。

同窓生向けメールサービス 「@alm.icu.ac.jp」のご案内

2015年度から、大学では学生・教職員のコミュニケーションツールとしてGmail (@icu.ac.jp) が採用され、卒業する際に卒業生全員にアドレス (@alm.icu.ac.jp) が提供されるようになりました。2014年度以前の卒業生もこの卒業生用アドレス (@alm.icu.ac.jp) を無料でご利用いただけます。卒業生用のドメインは@alm.icu.ac.jp。大学などの高等教育機関向けであるac.jpのサブドメインです。是非ご利用ください。詳しくは、以下で。

https://www.icualumni.com/to_alumni/mailservice/

福利厚生プログラム ICU同窓会WELBOXのご案内

同窓会では、株式会社イーウェルが運営する「WELBOX」という福利厚生プログラムを導入しています。会員制リゾートホテル・ハーベストが利用できるほか、国内宿泊のお得なプラン、映画やカラオケ、ガソリンの割引、ヘルスケアなど、多様な優待プログラムが準備されており、同窓会員本人だけでなく、兄弟姉妹や子、孫、祖父母まで利用することができます(2親等以内の家族)。

なお、終身会費をお納めいただいていない方はWELBOXのご利用登録ができません。ご不明な点は、同窓会事務局までお問い合わせください。詳しくは、以下で。

https://www.icualumni.com/to_alumni/welbox/

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フルサイズ6万円、ハーフサイズ3万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を事務局までお問合せください。

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオンなどの案内・報告をお寄せください。本誌およびWebサイトに掲載いたします。

★ 住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール(aaoffice@icualumni.com)または同窓会のWebサイトの住所変更から、ご一報ください。地方・海外にご転勤の際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問合せください。携帯の方はこちらからどうぞ:



★ ご協力をお願いします

大学の宣伝=大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただけますよう、お願い申し上げます。

DAY賞候補者をご推薦ください

Distinguished Alumni of the Year (DAY) 賞は、国際基督教大学に在籍したことのある方(卒業生・留学生・教職員。ただし故人は対象外)の中から、大学および同窓会の知名度・魅力度を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるために贈呈されます。皆様からのご推薦をお待ち申し上げます。

※推薦は年間を通して受け付けておりますが、前年10月15日受け付分までを選考対象として翌年の桜祭りで受賞者を表彰します。

※受賞者は同窓会Webサイトで発表するとともに、アラムナイニュースでお知らせいたします。

※推薦および選考については公開されません。

※自薦・他薦を問いません。

※推薦方法 WebフォームからもDAY賞候補者推薦ができるようになりました!

<https://www.icualumni.com/activities/day/>

Webサイトの「DAY賞」のページから[推薦フォーム]に、あるいは[推薦用紙PDF]をダウンロードして、必要事項をご記入の上ICU同窓会事務局までにお送りください。

郵送/FaxまたはE-mailで受け付けております。

※必要事項

- ・推薦したい方の氏名と卒業年、あるいは在籍年(分かる範囲で)
- ・推薦理由(新聞記事などの客観的資料があれば併せてお送りください)
- ・あなた(推薦者)の氏名と卒業年
- ・あなた(推薦者)の住所・Tel・E-mailアドレス

※歴代受賞者名もWebサイトに掲載しております。



ICU同窓会事務局

〒181-8585東京都三鷹市大沢3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320

E-mail: aaoffice@icualumni.com

《ICU 同窓会の皆様へ》 三井住友トラスト VISA ゴールドカード 年会費を大幅割引!

VISA ゴールドカード



通常年会費10,000円(税別)

2,500円(税別)

ロードサービス VISA ゴールドカード



通常年会費11,000円(税別)

3,000円(税別)

2年目以降も同額!

※家族会員年会費は1,000円(税別)です。

まもなく入会キャンペーン終了!!

2020年4月30日まで

期間中にご入会された方全員に
VJA ギフトカード 1,000円分
プレゼント!!

※本会員・家族会員同時に
ご入会の場合は、
2,000円分プレゼント



★ ご家族の方でも本会員申込みOK!

★ 同窓会にもメリット!!

カード利用額の一部が同窓会に還元!

★ ゴールドカードの主なお役立ちサービス

*海外・国内旅行傷害保険 *お買物安心保険

*空港ラウンジサービス *ワールドプレゼント

*ロードサービス(ロードサービスVISAゴールドカードのみ)

など

※ご入会にあたっては、弊社所定の審査がございます。

申込書請求先 (MAILの方は、ICU 同窓会員であることに加え ①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 をご送信ください。)

TEL 0120-370-070

MAIL Moushikomi@smtcard.jp

⇒⇒⇒



三井住友信託銀行グループ
三井住友トラスト・カード

お電話受付時間: 平日 9:00~17:00(土・日・祝日・12/30~1/3 休)

営業推進部

(取得した個人情報は VISA カード入会申込書を送付する事に限定いたします。)

3月28日

2020年3月28日開催 桜祭りのお知らせ

Sakura Festival 2020 will be held on March 28, 2020

桜の下で会いましょう Let us meet under the Cherry Blossoms

今年も春の訪れとともに、同窓会「桜祭り」を開催します。今回15回目を迎える同窓会「桜祭り」は、同窓会年次総会、DAY賞表彰式、卒業50周年記念式典、懇親会など、年に1度の同窓会総合イベントです。今年の卒業50周年記念式典には14期生の皆さまをお招きします。

たくさんのお客の皆さまが、この機会に桜咲くキャンパスに足をお運びになり、懐かしい方々との旧交を温めてくださいませうように。お知り合いの同窓生にもお声か

けの上、ご参加をお願い申し上げます。

当日は、同窓生が南アフリカで作るICUワイン「Musashino Cross」や、同じく同窓生の蔵元が作る日本酒「ばか山」をはじめ、新作の楽しいICU同窓会グッズも多数、用意しております。

DAY賞 (Distinguished Alumni of the Year Award) は、ICUに在籍したことのある方 (卒業生・留学生・旧教職員を含む) の中から、大学、および、同窓会の知名度・魅力を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるため毎年授与されるもので、今年5人の卒業生に授与されることになりました。

With the coming of spring, the Alumni Association will again host the Sakura Matsuri Festival. This 15th Alumni Association sponsored festival is a once-in-year event, comprising of the annual General Assembly, the Distinguished Alumni of the Year awards, fifty years since graduation celebration, reunion reception amongst others. This year, semicentennials who graduated in 1970 (ID 70) will be invited. We hope that many ICU alumni will return to the campus to enjoy the cherry blossoms and renew old friendships. Please get in touch with other alumni and come together. Amongst the beverages, *Musashino Cross*, a South

African wine produced by an alumni couple, and *Bakayama*, a Japanese sake brewed by another alumnus, will be served. Many novel playful ICU merchandise will be on sale as well. Distinguished Alumni of the Year awards are conferred on graduates, former faculty, employees and anyone affiliated with the university, who have raised the visibility and/or appeal of the school or the alumni association. This year, the DAY awards will be presented to five graduates for their distinguished services.

2020年 ICU同窓会桜祭り

開催日：2020年3月28日 (土) 場所：ICUキャンパス内礼拝堂・大学食堂

●総会・DAY賞表彰式・14期生の卒業50周年記念式典 (大学礼拝堂にて)

10:00 開場 10:30 開始 12:30 終了予定

●懇親会 (ダイアログハウス内大学食堂にて)

12:50 開始 14:00 終了予定

参加費：卒業生及び成人の同伴者 4000円・同伴者のうち中・高・大学生 1000円・

同伴者のうち小学生・未就学児 無料・ICU在学学生 1000円

※14期生ならびに、2019年夏季と2020年春季ご卒業の皆様は「無料ご招待」とさせていただきます。

詳細につきましては同窓会Webサイトの<https://www.icualumni.com/event/131>をご参照ください。

ICU Alumni Association Sakura Matsuri 2020

Date: March 28 (Sat), 2020

Venue: University Chapel and Dining Hall, ICU Campus

Alumni Association annual General Assembly, DAY awards ceremony and semicentennials celebration will be held in the University Chapel

Door opens 10:00 Meeting starts 10:30 Ends 12:30

Reunion reception will be held in University Dining Hall, the Dialogue House

Starts 12:50 Ends 14:00

Entry Fee: Graduates and accompanying adults ¥4000

・Accompanying middle, high school and university students ¥1000

・Accompanying primary school pupils and preschoolers free

・ICU Students ¥1000

※Semi-centennials, June 2019 graduates, students scheduled to graduate in April 2020 will enjoy free food and drinks!

お願い 総会への出欠のいかんに関わらず、出欠のご連絡をお願い申し上げます。

締め切り：3月16日 (月) ※14期生の皆様は、別途郵送するご招待状ハガキをご利用ください。

RSVP Deadline: March 16, 2020 To the semi-centennials: Please bring along the invitation postcard which should reach you by mail.

出欠の連絡方法 Please use the web form to indicate if you are attending or not the annual general meeting

●Webフォーム Register on the homepage <https://forms.gle/zoowLyG3qbnfZEQ57> ●QRコード Scan the QR code



●メール: aaoffice@icualumni.com、FAX: 0422-33-3320

または官製はがき (〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2 ICU同窓会事務局) で

お知らせいただく場合、以下の項目についてお知らせください。

- ・出席される方のお名前とName (in alphabet) (必須)
 - ・期またはID (必須)
 - ・卒業時の姓
 - ・総会へのご出欠 (必須)
 - ・欠席の場合に議決権を委任する方のフルネーム (空欄の時は議長に一任とさせていただきます)
 - ・懇親会へのご出欠 (必須)
 - ・懇親会へのご同伴者 (ご同伴者も同窓会員である場合、その方のお名前 (フルネーム) と期をあわせてご記入ください)
 - ・懇親会への同窓会員以外の成人のご同伴者数
 - ・懇親会へのご同伴の中～大学生数、ご同伴の未就学～小学生数
- お問い合わせ：同窓会事務局 aaoffice@icualumni.com 0422-33-3320 (平日10:00～12:00, 13:00～17:00)

Please email to aaoffice@icualumni.com, fax (no. 0422-33-3320) or send a prepaid postcard with the following essential information:

- ・name of participant in Japanese & English
 - ・ID no.
 - ・original family name, if any
 - ・attendance or not to the annual general meeting
if not attending the annual general meeting, the full name of the person you are delegating your voting right to (if left blank, your voting right will be delegated to the chairperson)
 - ・attendance or not to the reunion reception
 - ・name of accompanying persons (if ICU alumnus, full name and ID no.)
 - ・number of accompanying adults
 - ・number of accompanying middle, high school or university students
 - ・number of accompanying primary school pupils or preschoolers
- Please make any inquiries to the Alumni Association office by e-mailing to aaoffice@icualumni.com or phoning 0422-33-3320 on weekdays between 10:00 ~ 12:00 & 13:00 ~ 17:00

DAY賞 (Distinguished Alumni of the Year Award) 2020 受賞者決定!

ICU同窓会では、それぞれの分野でご活躍され、大学および同窓会の魅力・知名度を高めることに貢献した方々を、毎年「DAY (Distinguished Alumni of the Year)」として表彰しています。15年目となる2020年のDAY賞受賞者は以下の皆様です (敬称略)。表彰式は、2020年3月28日 (土) に開催予定の同窓会「桜祭り」にて行われます。皆さん、どうぞご参加ください。ご一緒にお祝いしませんか。

ICU同窓会・DAY賞選考委員会

茅野友子

CHINO, Tomoko (2 G1972)

ICUで受けた教育を海外在住中に生かし、50歳を過ぎて博士号を取得。教授として本格的に教育と英文学研究のキャリアをスタートさせた。ICUと第2の母校UCI (カリフォルニア大学アーバイン校) との交流に協力し、1997年にUCI学長賞を受賞。ベティラヴィウム会の設立と運営に40年近く携わり、またピースベルスカラシップの一つとしてD.S. プルワー博士記念奨学金を設立。2019年11月に「シェイクスピアの時と我々の時」を上梓。

村上陽一郎

MURAKAMI, Yoichiro (特別会員)

科学史・科学哲学の分野では日本を代表する研究者で発信者。ICUでは1970年から非常勤講師として、1995年から2008年の退任までは教授として教壇に立ち、その警咳に触れた同窓生は数多い。現名誉教授。2016～17年の第1回・第2回同窓会リベラルアーツ公開講座に登壇、同窓生を超えて学外からも幅広い聴衆を集め、ICUのリベラルアーツへの理解を促めることに貢献した。

齋藤顕一

SAITO, Kenichi (17)

第15代同窓会長として2002年から2006年まで同窓会を率いた。斬新なアイデアと若手現役世代や在学生を巻き込む求心力で、現在の「働く同窓会」の礎を作った功労者。同窓会長退任後は、各方面で活躍する同窓生をインタビュー記事の形で紹介する「今を輝く同窓生たち」(同窓会Webサイトに掲載)を開始し、2020年で15年目を迎える。これまでに67人の同窓生を紹介し同窓生への励ましとICUの知名度アップに貢献している。

小泉明郎

KOIZUMI, Meiro (43 ID99)

ICU卒業後、イギリスの美大で映像を学び、アムステルダムでアート活動を展開する映像作家。2007年からは横浜を拠点に国家や共同体と個人、身体と精神の関係について探求。2009年森美術館 (東京) での個展、2013年ニューヨーク近代美術館 (MOMA) での個展をはじめ、世界各地の美術館で個展を行うほか、国際的な芸術祭などで作品を発表し続けている。また今年の「あいちトリエンナーレ2019」[表現の不自由展]にも出展。作品は東京都現代美術館 (東京)、テイトギャラリー (イギリス)、ニューヨーク近代美術館 (アメリカ) をはじめ国内外の多くの美術館に収蔵されている。

山本和奈

YAMAMOTO, Kazuna (63 ID19)

在学中、2018年12月15日号・雑誌「週刊SPA」に掲載された女性蔑視の記事に対し、自ら立ち上がり署名活動を展開した。直接編集部を訪れ抗議を申し入れ、謝罪を勝ち取った勇気ある行動は、それまで違和感を持ちながらも声に出せなかった多くの人々を勇気づけた。「おかしいと思うことには自ら声を上げる」という信念を通し一般社団法人Voice Up Japanを立ち上げる。ICU卒業後も人権・ジェンダー問題に取り組んでおり、現在はベルギーで活動するNGO Educate Forの代表を務めながら、チリにてブロックチェーンに関わる会社を立ち上げている。

STAFF

EDITOR IN CHIEF

神内一郎 JINNAI, Ichiro (33 ID89/G1992)

MANAGING EDITOR

松田真理子 MATSUDA, Mariko (38 ID94)

EDITORS

朽木ゆり子 KUCHIKI, Yuriko (18)
鈴木 律 SUZUKI, Ritsu (23 ID79)
望月厚志 MOCHIZUKI, Atsushi (26 ID82)
新村敏雄 SHINMURA, Toshio (27 ID83)
安楽由紀子 ANRAKU, Yukiko (40 ID96)
星川菜穂子 HOSHIKAWA, Naoko (40 ID96)
谷澤 聡 TANIZAWA, Satoshi (54 ID10)
亀山誌乃 KAMEYAMA, Shino (54 ID10)
滝沢貴大 TAKIZAWA, Takahiro (62 ID18)
笹島梨里佳 SASAJIMA, Ririka (66 ID22)

ART DIRECTOR

佐野久美子 SANO, Kumiko (44 ID00)

PRINTING DIRECTOR

坂井健 SAKAI, Takeshi (小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR

松島真理 MATSUSHIMA, Mari (36 ID92)

PUBLISHER

櫻井淳二 SAKURAI, Junji (28 ID84)

cover photo: MOCHIZUKI, Atsushi (26 ID82)
backcover photo: KAMEYAMA, Shino (54 ID10)

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみ
なさまのために制作しているものです。
今後の制作の参考にしますので、ご意
見・ご感想、企画や人物の紹介等有
る方は、メールにてお気軽に事務局ま
でお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をアラムナイニュース
に生かしてみませんか？ 企画、取材、
執筆、撮影、編集進行等を一緒にやっ
て頂ける方を大募集中です。もちろん
未経験でも可。最初は一緒に取材など
を行いながら編集のプロから直接技術
を学べますし、3年ぐらいやれば、一
通り編集の基本が身に付きます。もち
ろん、現役の学生さんも大歓迎です。
興味のある方は、同窓会事務局へメー
ルでご連絡ください。

aaoffice@icualumni.com

■大学・同窓会に関する情報が満載です。

ぜひ一度ご覧ください。

同窓会 Web サイト

<https://www.icualumni.com/>

同窓会 facebook

<https://www.facebook.com/icualumniassociation>

大学 Web サイト <https://www.icu.ac.jp/>

JICUF Web サイト <http://www.jicuf.org/>

■ ICU 同窓会事務局

〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX : 0422-33-3320

Email : aaoffice@icualumni.com

